

第7編 林中原Ⅱ遺跡X

第1章 既往の調査

林中原II遺跡はこれまでに町教委や事業団により試掘・本調査など計15回の調査が行われてきた。

町教委では平成15～19・22年度にかけて試掘調査11回、本調査2回を行った。試掘調査では縄文時代中期後半～後期前葉の包含層（第370図2）、縄文包含層（同図7）、そして今回の調査に伴う試掘調査では縄文中期後半包含層・土坑・陥落穴（同図10）が見つかっている。本調査となった事例では、縄文中期住居跡1軒、土坑、近世墓（同図11）、縄文中期後半～後期前葉列石1基、配石遺構3基、弥生中期前半陥落穴遺構1基・土坑が見つかっている（同図12）。

事業団では平成16・20～21年度にかけて本調査を2回行った。このうち同図Bの調査では、123軒もの縄文住居や列石などが見つかっている。弥生時代の住居や土坑もあり、古代～近世にかけての礎石建物や大量の土坑などが見つかっている。

このように見てみると、林中原II遺跡は現在の町道となっている同図11の調査地点から南側で遺構が確認できる傾向にあり、緩傾斜の地点に遺構が分布するのだろう。

第53表 林中原II遺跡調査一覧（文献番号は巻末の参考文献を参照）

番号	調査年度	調査機関	調査面積 (開発面積)	概要	備考
1	平成15年度	長野原町教育委員会	26m ² (569.83m ²)	遺構なし	文献10
2	"	"	141m ² (141m ²)	(縄文) 中期後半～後期前葉包含層	文献10
3	平成16年度	"	15m ² (230.27m ²)	遺構なし	文献12
4	"	"	12m ² (468.88m ²)	遺構なし	文献12
5	"	"	16m ² (180.71m ²)	遺構なし	文献12
6	平成17年度	"	37m ² (585m ²)	遺構なし	文献13
7	"	"	14m ² (292m ²)	縄文包含層	文献13
8	平成18年度	"	36m ² (1456m ²)	遺構なし	文献14
9	"	"	21m ² (190.03m ²)	遺構なし	文献14
10	"	"	83m ² (825m ²)	(縄文) 中期後半包含層・土坑1・陥落穴1 (縄文) 中期後半住居1・土坑1 (中世以降) 縱立柱建物1・礎石建物1・柱列1・ピット79 ・土坑39・自然沈没路2・時期不明堆溝谷1	文献14
11	平成19年度	"	200m ² (728m ²)	(縄文) 中期前葉住居1・土坑1 (古世) 土坑蓋2	文献15 未報告
12	平成21年度	"	312m ² (554m ²)	(縄文) 中期後半～後期前葉列石1・配石遺構3 (弥生) 中期前半陥落穴遺構1・土坑20	文献18
13	平成22年度	"	544m ² (11.56m ²)	遺構なし	文献19
A	平成16年度	(財) 郡馬原埋蔵文化財調査事業団	1415m ² (1415m ²)	遺構なし	文献92 未報告
B	平成20～21年度	"	3203m ² (4225m ²)	(縄文) 住居123・土坑11・列石6・集石28・埋甕9 (弥生) 住居4・土坑1 (古代～近世) 繩石建物4・縦立柱建物跡8・土坑644・溝3	文献96・97 未報告

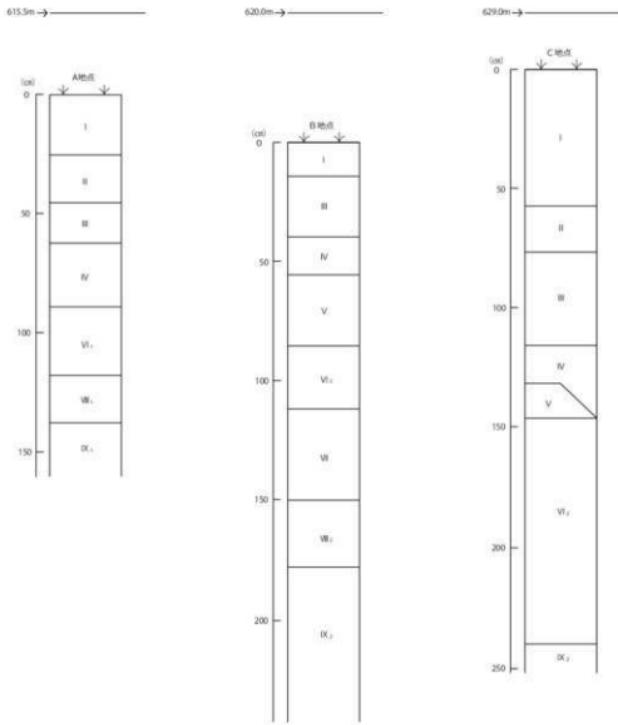
第2章 調査の経過

林中原II遺跡Xの発掘調査は、平成25年4月8日から開始し、同年7月23日に終了した。4月8日から1区の表土（耕作土とそれ以下の土）掘削を開始し、4月10日に表土掘削が終了した。4月25日に1区の全景写真撮影を実施し、4月26日に1区の発掘調査を終了した。4月30日に1区の埋め戻しを終了し、2区の表土掘削を開始した。

5月1日に2区の表土掘削が終了し、翌日から遺構精査を開始した。5月22日に2区調査区全景写真撮影



第370図 調査区位置図(1/2,500)



第371図 基本土層柱状図(1/20)

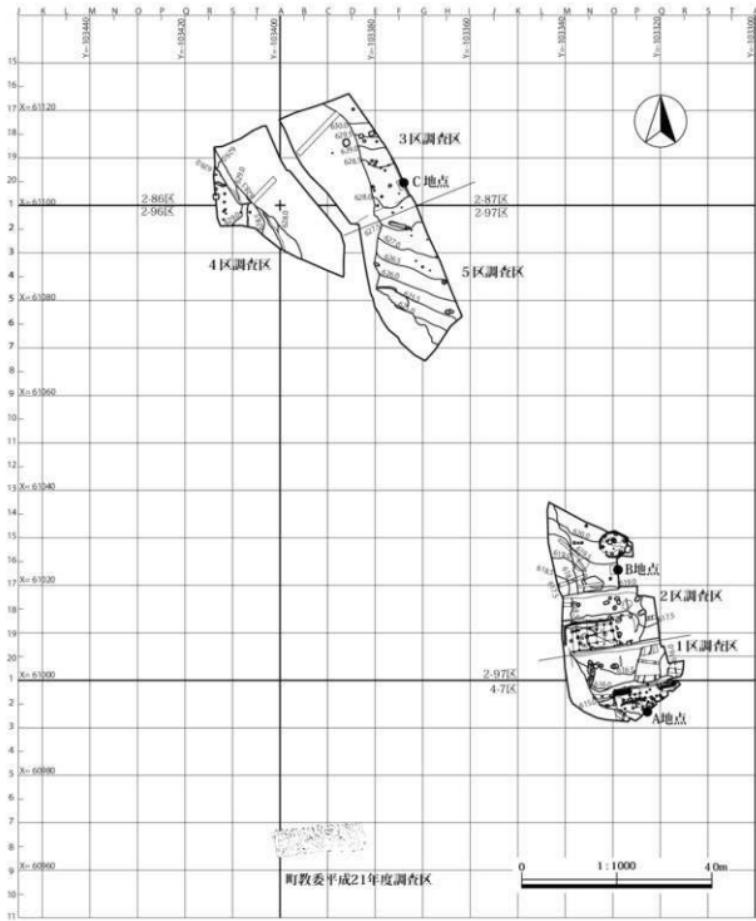
とS101の掘り方調査を実施し5月23日に2区の発掘調査を終了した。

6月4日は3区・4区・5区内の不要物の片付け、立木伐採を開始した。6月17日から3区・4区の表土掘削を開始し、6月18日から3区の遺構確認・遺構精査を開始した。6月21日に4区の遺構精査を開始し、6月25日3区・4区の表土掘削が全て終了した。

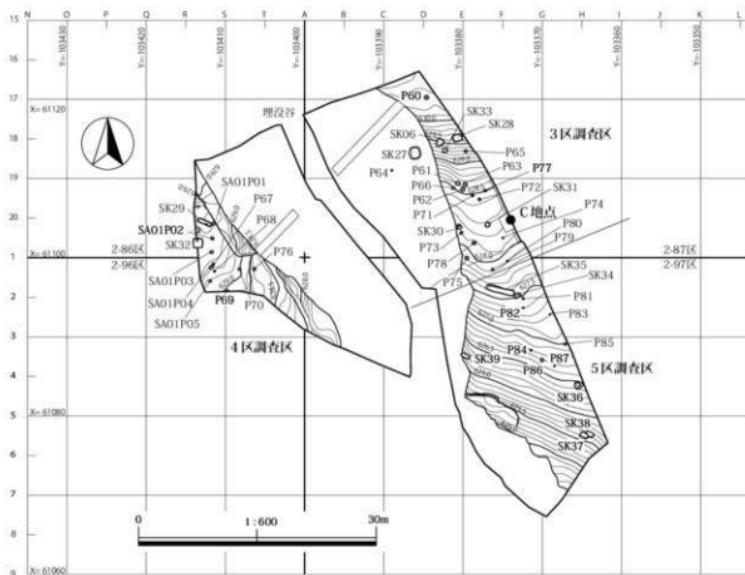
7月4日に3区・4区の全景写真撮影を実施し、7月9日に3区・4区の発掘調査が終了した。翌日から3区・4区の埋め戻しを実施し、7月11日からは5区の表土掘削を開始した。7月12日から5区遺構確認を実施し、7月16日に5区の表土掘削が終了した。7月17日から5区の遺構精査を開始し、7月23日に5区の発掘調査が終了し、林中原II遺跡Xの発掘調査は終了となった。

第3章 基本層序

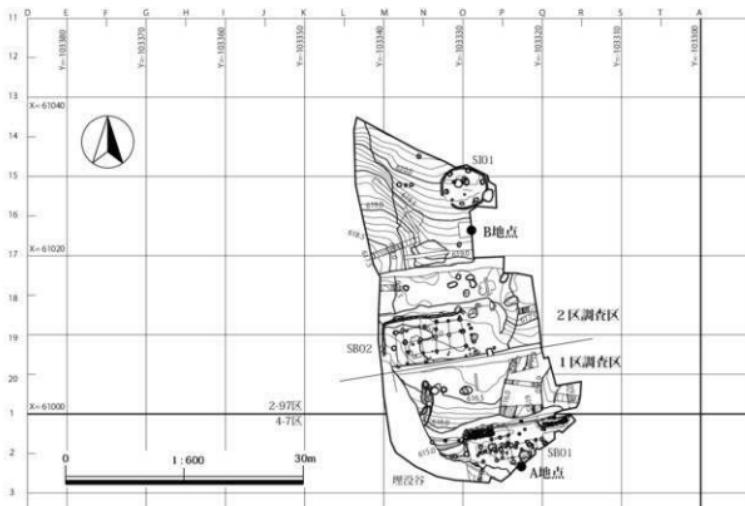
今回の発掘調査の基本層序は、第372～375図のA地点、B地点、C地点の3か所で確認した。全部で九層あり、細分される層もある。B地点は水の流れた痕跡が見られた。試掘調査24・25トレンチ2～4層に該当する層は、耕作や造成、段切りなどで破壊されたと考えられる。



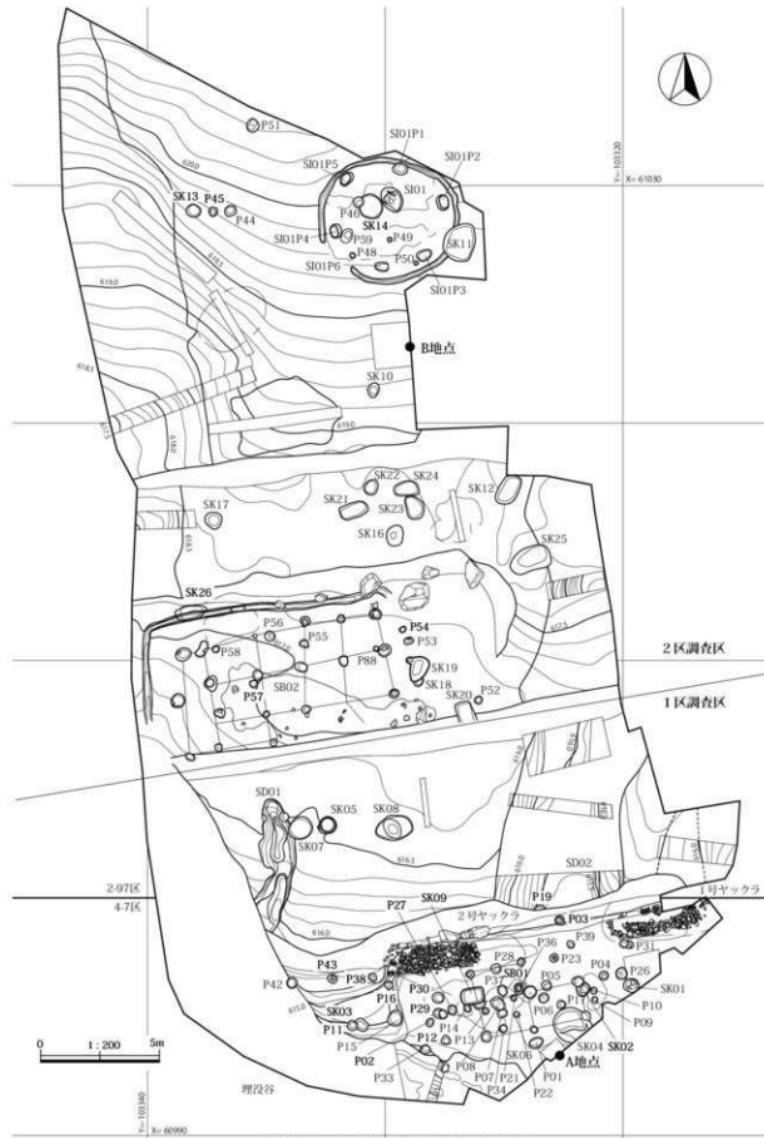
第372図 調査区全体図(1/1,000)



第373図 3～5区調査区全体図(1/600)



第374図 1・2区調査区全体図(1/600)



第375図 1・2区調査区分割図(1/200)

第Ⅰ層 黒褐色土

表土である。粘性がややあり、しまりは弱い。試掘調査 24・25 トレンチ 1 層に相当する（長野原町教育委員会 2008、以下同じ）。

第Ⅱ層 暗褐色土

いわゆるローム漸移層である。粘性、しまりともにあり。As-Ypk (ϕ 5 mm) を少量含む。ロームブロック (ϕ 5 ~ 10 cm)・ローム粒多量含む。試掘調査 24・25 トレンチ 5 層に相当する。

第Ⅲ層 黄褐色土

いわゆる関東ローム層である。粘性・しまりともにあり。砂礫・As-Ypk (ϕ 5 mm ~ 1 cm) を少量含む。試掘調査 24・25 トレンチ 6 層に相当する。

第Ⅳ層 黄褐色砂質土

ローム層の一種であると考えられる。粘性弱く、しまりあり。

第Ⅴ層 火山灰

粘性弱く、しまりあり。火山灰が層状に堆積し、上から順ににぶい赤褐色、灰オリーブ色、にぶい赤褐色、褐色ロームと薄く灰オリーブ色、暗赤褐色を呈する。

第VI₁層 明黄褐色土

ローム層の一種であると考えられる。粘性があり、硬くしまる。小礫を少量含む。

第VI₂層 明黄褐色軽石

いわゆる As-Ypk の層である。粘性はなく、しまりあり。As-Ypk は ϕ 1 mm ~ 1 cm のものが見られる。

第VII₁層 浅黄橙砂礫

粘性、しまりともに弱い。浅黄橙軽石 (ϕ 1 ~ 2 cm) を多量含む。

第VII₂層 黄褐色土

ローム層の一種であると考えられる。粘性があり、硬くしまる。砂礫を微量含む。

第VIII₁層 暗赤褐色砂礫

粘性があり、しまり弱い。水の流れのためか赤錆が見られる。浅黄橙軽石 (ϕ 1 ~ 3 cm) を含む。

第IX₁層 褐色土

ローム層の一種であると考えられる。粘性ややあり、硬くしまる。砂礫を多量含む。礫を大量に含む。

第IX₂層 にぶい黄褐色砂質土

ローム層の一種であると考えられる。粘性・しまりともにあり。浅黄橙軽石 (ϕ 1 mm ~ 1 cm) を含む。

第4章 検出された遺構と遺物

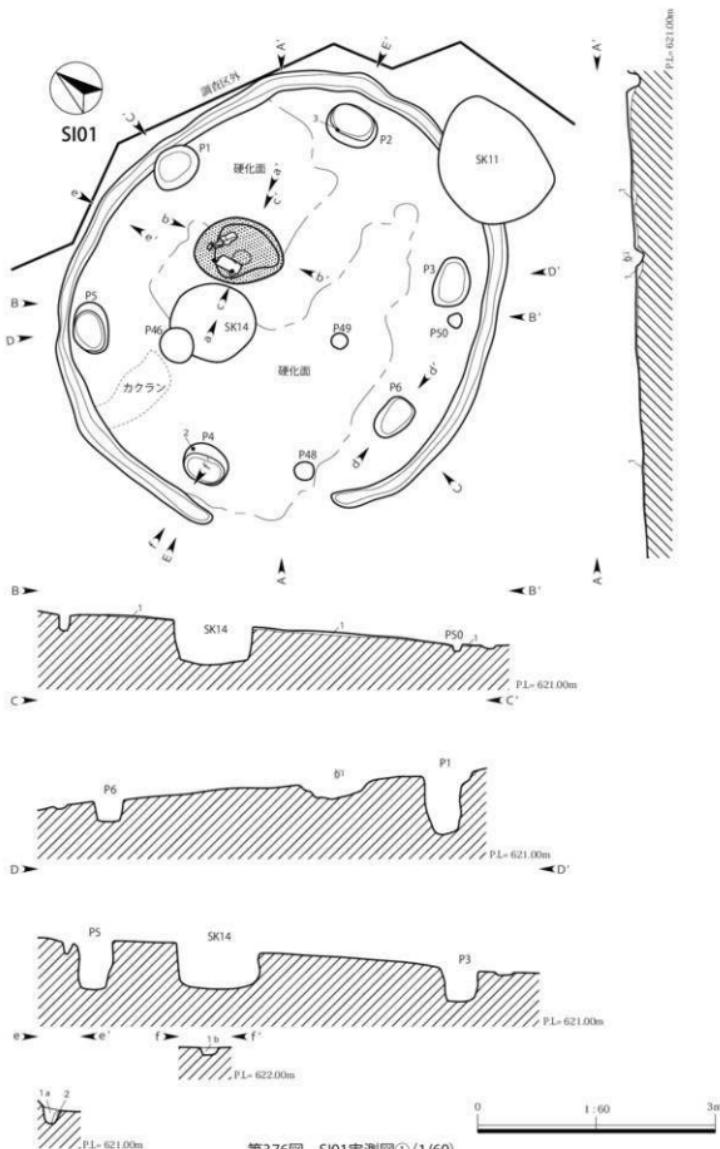
第1節 遺跡の概要

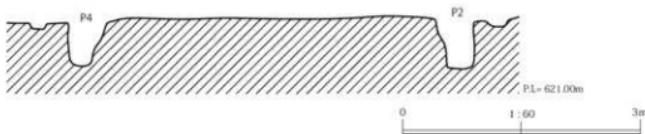
林中原Ⅱ遺跡は、長野原町大字林字中原に所在する、縄文時代の集落や近世の建物跡などが発掘された遺跡である。

本遺跡は伊妻川左岸の上位段丘面上に位置し、南向き緩斜面に立地している。調査範囲は、町道を挟んで南北 2 か所に分かれている。町道の南側（1 区・2 区）は段丘崖から北へ約 80 m ~ 140 m の所にある。町道の北側（3 区・4 区・5 区）は段丘崖から北へ約 160 m ~ 220 m の所にある。標高は、614.6 m ~ 630.4 m である。発掘調査地点の現況は、畑地である。1・2 区は段を切って造成された畑地である。

今回の発掘調査は林中原Ⅱ遺跡の第 10 次調査にあたる。調査範囲は遺跡範囲の中央部にあたり、大字林字中原 965-1 外 6 筆に所存する。1・2 区に縄文時代、近世の遺構は集中する。3~5 区は現代か現代に近い時期の土坑（植栽の痕跡か）が目立った。

確認された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡が 1 軒、土坑が 1 基、近世の建物跡 2 棟、ヤックラ 2 基、墓の可



**SI01上層説明****AA'**

1. 暗褐色土層:粘性ややあり。しまり硬い。ロームブロック(φ 3~5cm)大量含む。ローム粒・Ypk(φ 1cm)少量含む。

SI01ビット上層説明**P1**

1. 暗褐色土層:粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 20cm)・ローム粒・Ypk(φ 1cm)少量含む。

P2

1. 黒色土層:粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm~1cm)多量含む。ローム粒・Ypk(φ 5mm)少量含む。炭化粒(φ 1mm)微量含む。

P3

1. 黒色土層:粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm~1cm)多量含む。ローム粒・Ypk(φ 5mm)少量含む。炭化粒(φ 1mm)微量含む。

P4

1. 黒色土層:粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm~1cm)多量含む。ローム粒・Ypk(φ 5mm)少量含む。炭化粒(φ 1mm)微量含む。

P5

1. 黑色土層:粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm~1cm)多量含む。ローム粒・Ypk(φ 5mm)少量含む。炭化粒(φ 1mm)微量含む。

dd' P6

1. 暗褐色土層:粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・Ypk(φ 5mm~1cm)少量含む。

SI01壁溝土層説明**e e' f f'**

1a. 黒 色 土 層:粘性あり。しまりあり。Ypk(φ 5mm~1cm)少量含む。

1b. 細 色 土 層:粘性あり。しまりあり。Ypk(φ 1cm)少量含む。

2. にぶい暗褐色土層:粘性あり。しまりややあり。Ypk(φ 5mm)微量含む。

第377図 SI01実測図②(1/60)

能性があるもの 4 基、土坑が 12 基、ビットが 43 基ある。この他、時期不明であるが近世の建物跡が建物として存在していた頃には埋没していたと考えられる溝跡 2 基と埋没谷 1 基が見られた。また、近現代のものと判断したビット列が 1 基所見つかっている。

なお、調査中は遺構認定したものの整理作業の過程で近現代のものと判断して記載しなかったものがある。SK06・12・13・16・17・21・24・27~39、P 44~46・48~51・59~87 が該当する。これらは平面図のみ全体図・分割図に掲載し、ビットのみ諸属性を一覧表に記載した。SK15 は SI01 の炉に、P 18・20・36・32・41 は SB01 ビットに、P 47 は SI01 ビット 6 に変更になったため欠番とした。

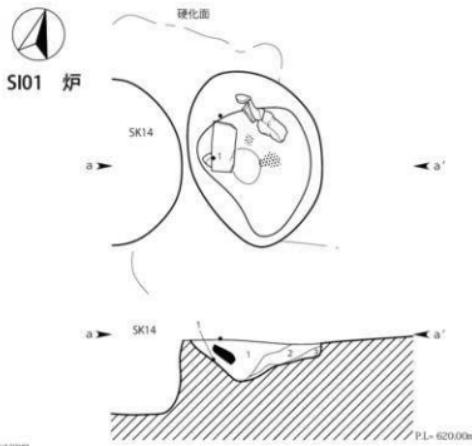
出土遺物の種類は、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、鉄製品、銅製品、土製品、石製品、石器で、その数量はテンバコ 2 箱分であった。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

(1) 積穴住居跡

SI01 (第 376 ~ 380 図 / P L 138・139・142)

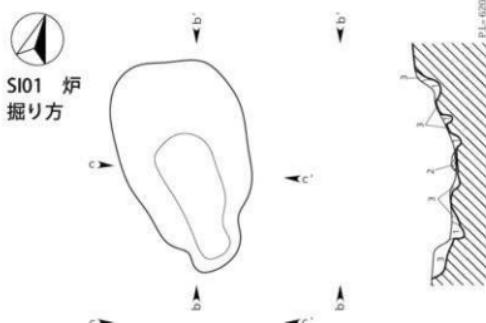
位置 2-97 区 N・O-14・15 グリッド (1・2 区調査区北東隅)。 **重複関係** SK11・14 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 本遺構の上位は段切りと造成により破壊され、壁面は残存していない。床面が辛うじて残存する。 **覆土 不明**。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は主軸 5.9m、副軸 5.35m、確認面からの深さは壁が無いために不明で、床面積は 21.24m² を測る。 **主軸方位** N-90°。 **壁・壁溝** 壁の状況は不明である。壁溝は南西部を除いて一周する。溝幅は 13cm~23cm、床面からの深さは 5cm~15cm を測る。 **床面** 硬化面が炉を中心西寄りに確認できた。貼床は認められなかった。緩やかに南に下る。



SI01炉土層説明

a a'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。炭化粒(Φ 1mm)・板状の石・YPk(Φ 1～3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む、ロームブロック(Φ 1cm)微量含む。
3. 褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(Φ 5mm)微量含む。



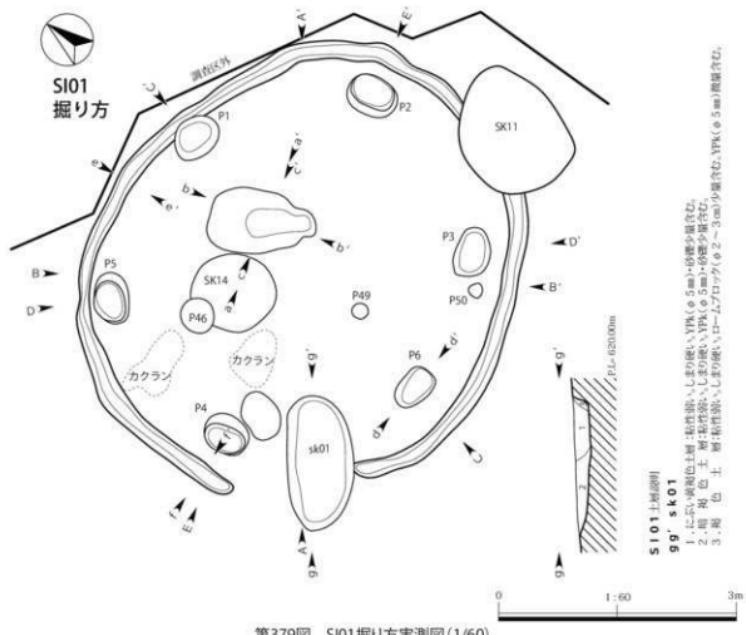
SI01炉掘り方上層説明

b b' c c'

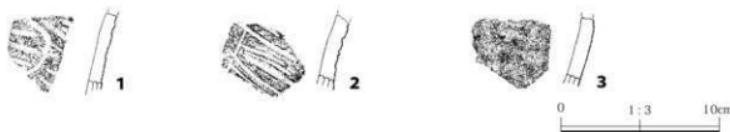
1. 褐 褐 色 土 層：粘性ややあり、しまり弱い、ローム粒少量含む。
2. 赤褐色褐色土層：粘性弱い、しまり弱い。
3. 褐 色 土 層：粘性弱いややあり、ロームブロック(Φ 2～3cm)大量含む。



第378図 SI01炉・炉掘り方実測図 (1/30)



第379図 SI01掘り方実測図(1/60)



第380図 SI01出土遺物実測図(1/3)

柱穴 P 1 ~ P 6まで確認できた。平面形は梢円形を呈し、深くしっかりとした柱穴である。規模については第54表に示した。

炉 中央部や西北寄りに位置する。遺存状態が悪い。平面形は梢円形を呈する。規模は長軸110cm、短軸85cm、火床面は最深で33cm掘りこまれる。

その他の施設 挖り方確認時に周溝の途切れた部分で土坑(SI01sk01)を検出した。平面形は梢円形を呈する。規模は長軸170cm、短軸95cm、確認面からの深さ20cmを測る。**遺物検出状況** 遺物はほとんど出土していないが、P 2、P 4で繩文土器片が、炉では繩文土器片やかに使っていたと考えられる扁平な石(いわゆる鉄平石)が見られた。周溝からは黒曜石片もわずかに出土している。**遺物** 出土遺物のうち繩文土器3点を図示し得た。**備考** 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E式期)に帰属するものと考えられる。なお、壁溝の途切れた部分は、住居の入口で、SI01sk01は入口に関わる何らかの施設と考えられよう。

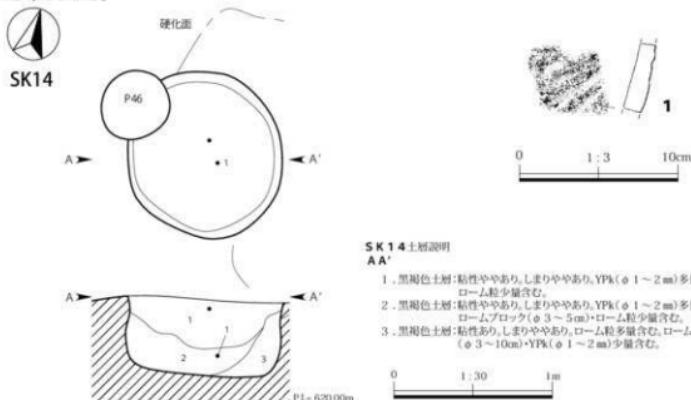
第54表 SI01 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	65	63	57	58	65	55
短軸長(cm)	50	45	38	48	45	50
深さ(cm)	66	42	27	61	60	74

(2) 土坑

SK14 (第381図／PL 142)

位置 2-97区N-15グリッド(1・2区調査区北東部)。 **重複関係** SI01、P 46と重複し、本遺構はSI01より新しくP 46より古い。 **遺存状態** 西側の一部がP 46により破壊される。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸108cm、短軸98cm、確認面からの深さ54cmを測る。 **主軸方位** N-33°-W **壁面** ややオーバーハング気味となる。 **底面** 東に向かって下る。 **遺物** 繩文土器を1点図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期後葉に帰属するものと考えられる。



第381図 SK14実測図(1/30)・縄文時代土坑出土遺物実測図(1/3)

第3節 近世の遺構と遺物

(1) 挖立柱建物跡

SB01 (第382・383図／PL 139)

位置 4-7区O・P-1・2グリッド(1・2区調査区南端部)。 **重複関係** SK02と重複し、本遺構の方が新しい。1・2号ヤックラが本遺構の柱穴並ぶラインにせり出しているので、本遺構は1・2号ヤックラより古い可能性がある。 **遺存状態** 本遺構の上位は段切りと造成により破壊される。 **規模** 東西間口6.5m(3間以上)、奥行き3m以上、南北柱間約1.5m、東西柱間約2mを測る。 **主軸方位** 東西N-76°-W、南北N-12°-E。 **概要** P 1～P 8までを柱穴として確認でき、3間×2間の建物が想定できる。少し並びが悪くなるがP 12やP 29も本遺構に属すると考えると4間×2間、南北方向の柱が調査区外に及ぶなら、それ以上の規模の建物となろう。柱穴の規模については第55表に示した。

その他の施設 特に明記

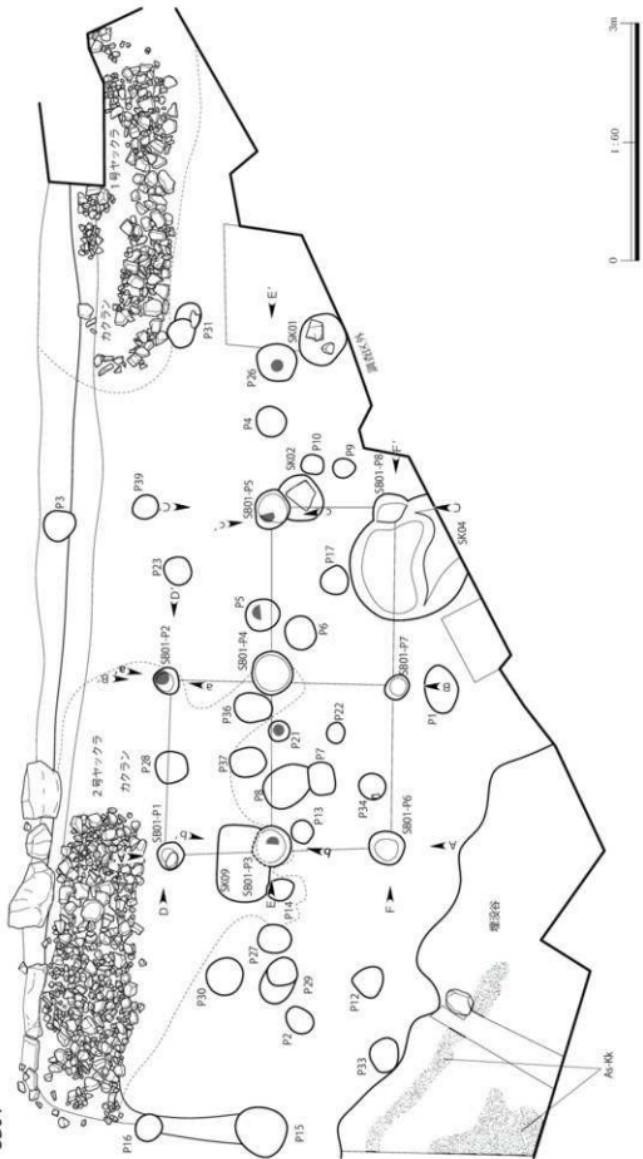
第55表 SB01 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	35	35	51	53	50	45	33	50
短軸長(cm)	33	33	51	53	45	43	28	<37>
深さ(cm)	20	20	54	56	59	18	27	22

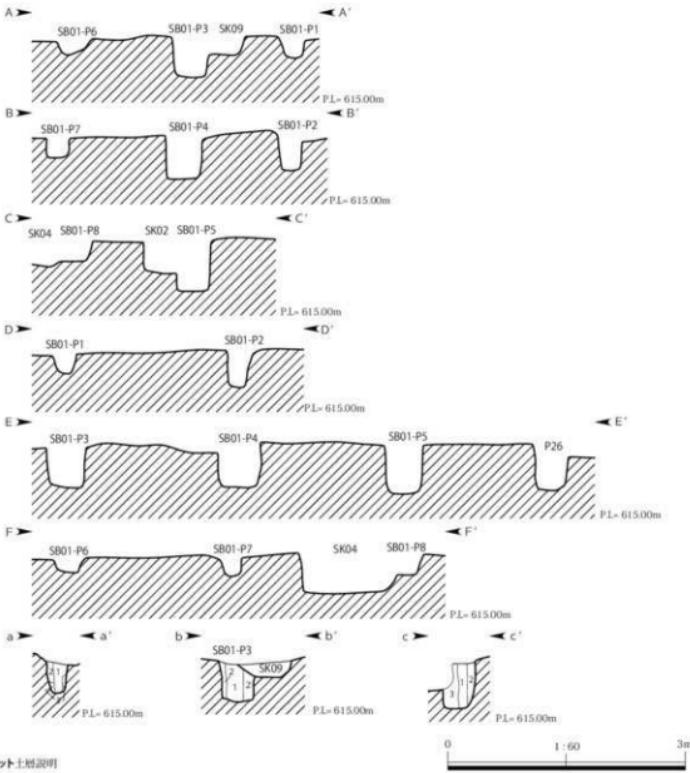
すべき施設は見あたらなかった。 **遺物検出状況** 直上が造成の土で焼土・炭化物なども見られたが、近世陶磁器もあり、本遺構に伴うものとの分別は難しい状況であった。 **遺物** 陶磁器の小破片が出土しているが、図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から近世(江戸時代後期)に帰



SB01



第382図 SB01実測図①(1/60)



S B 0 1 ピット土壤説明

P 1

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒多量含む。純土粒・小礫少量含む。炭化粒(φ 5mm)微量含む。

a a' P 2

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。

2. 黒褐色土層：粘性弱く、しまりややあり。繊多量含む。ロームブロック(φ 1cm)微量含む。

3. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。ロームブロック(φ 1~5cm)大量含む。ローム粒・小礫少量含む。

b b' P 3

1. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5mm~1cm)・小礫微量含む。

2. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。純土粒・小礫微量含む。ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・小礫少量含む。

3. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。ロームブロック(φ 1~5cm)大量含む。ローム粒多量含む。小礫少量含む。

4. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。ロームブロック(φ 1~5cm)・ローム粒・小礫少量含む。

c c' P 5

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック(φ 1cm)大量含む。ローム粒多量含む。炭化粒(φ 3mm)微量含む。

2. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。純土粒・小礫微量含む。ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・小礫少量含む。

3. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 3mm)多量含む。

4. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 3mm~2cm)・ローム粒・小礫微量含む。

P 6

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。暗褐色土少量含む。小礫微量含む。

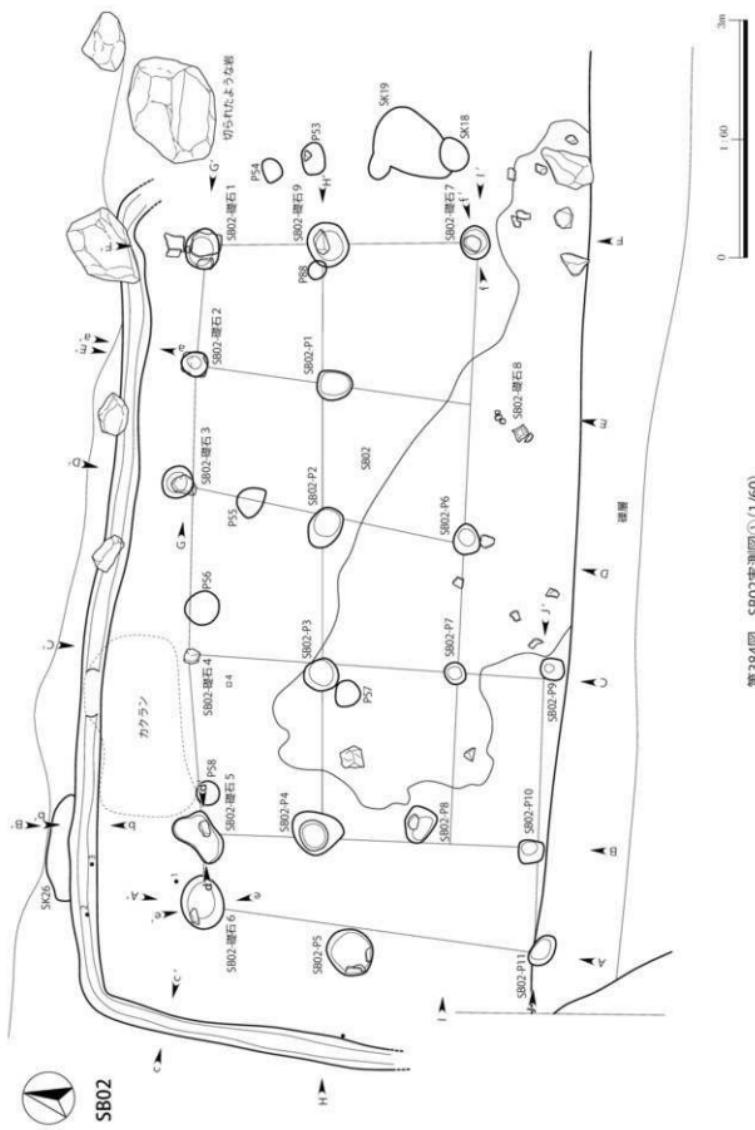
P 7

1. 黑褐色土層：粘性弱く、しまり弱く、繊多量含む。

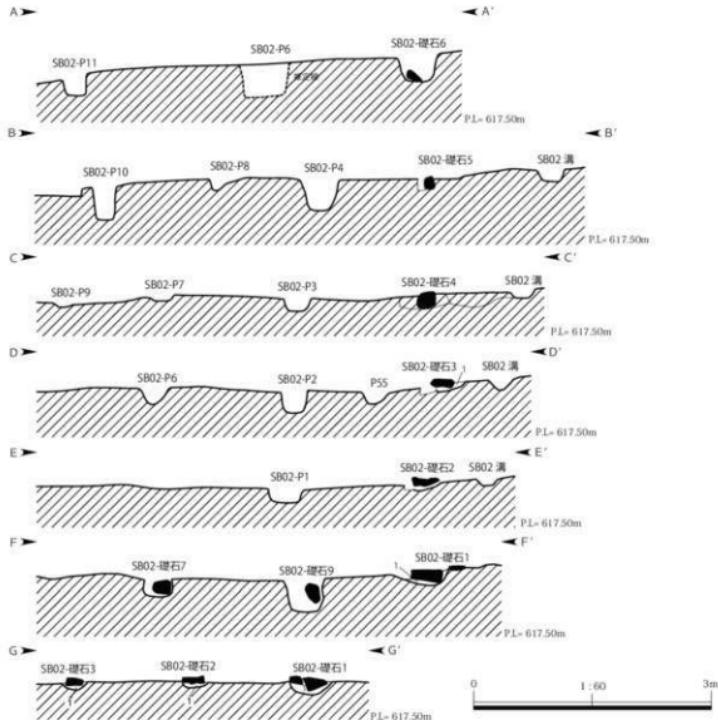
P 8

1. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 1~2cm)多量含む。ローム粒・小礫含む。

第383図 SB01実測図②(1/60)



第384回 SB02実測図①(1/60)



SB02ビット上層説明

P 1

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒・礫少量含む。

P 2

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。

P 3

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。

P 4

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。

P 5

1. 黒褐色土層: 黏性あり。しまりあり。砂多量含む。ローム粒・YP k ($\phi 3\text{ mm}$)少量含む。

SB02礫石土層説明

GG' 磚石1~3

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。

P 6

1. 黒褐色土層: 黏性ややあり。しまりややあり。ローム粒・礫多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。

P 7

1. 明褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。

P 8

1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。

P 9

1. 明褐色土層: 黏性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。

P 10

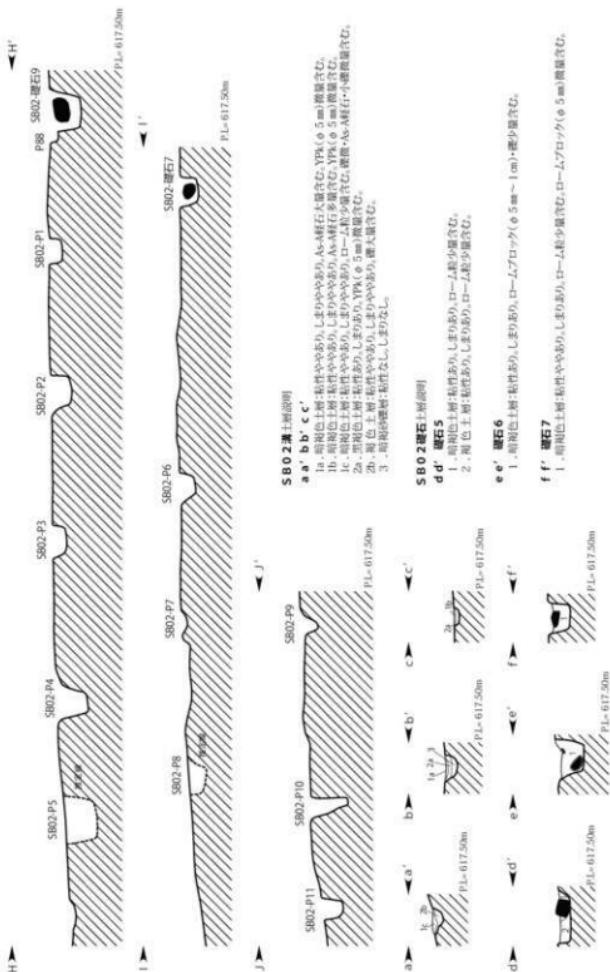
1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック($\phi 3\text{ cm}$)微量含む。

P 11

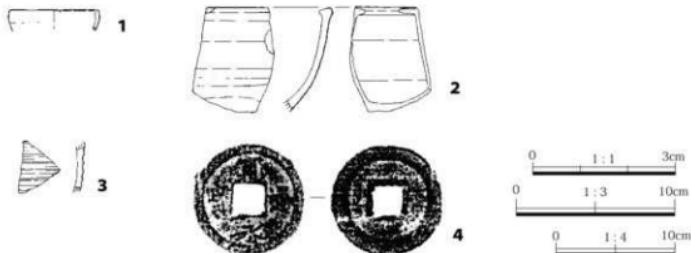
1. 明褐色土層: 黏性ややあり。しまりややあり。ロームブロック($\phi 3\text{ mm}$)多量含む。

第385図 SB02実測図②(1/60)

属するものと考えられる。本遺構の周囲には似たような規模のビットが見られ、同じ土地で何回か建て替えを行った可能性があるが、これらのものは並びを確認することはできなかった。



第386図 SB02実測図③(1/60)



第387図 SB02出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)

SB02 (第384～387図／PL 139・140・142)

位置 2-97区M～O-18・19グリッド(1・2区調査区南端部)。 **重複関係** SK26と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 本遺構の上位は段切りと造成により破壊される。南側は段切りにより完全に破壊されている。なお、本遺構北部中央よりやや西寄りでカクランが見られた。**規模** 東西間口11.0～13.3m以上(4～5間)、奥行き5.4～7.0m以上、南北柱間約2.3～2.5m、東西柱間約2.5～3.0mを測る。

主軸方位 東西N-76°-W、南北N-8°-E。 **概要** P1～P12、礎石1～9までを柱穴や礎石として確認できる。ピット状に掘り窪めたのち、礎石を安置したような状況のものも見られる。ただし、礎石6、P6・12は並びがやや崩れる。礎石8は地面が岩盤であるが柱の並びを考慮すると、この位置に柱が来たと思われる。また、本遺構の東隣には切られたような岩があり、何らかの関係があるのかもしれないが、不明である。岩が埋まっている部分の土層を断ち切ってみたが元々その場にあったものであることが分かった。柱穴の規模については、第56・57表に示した。

第56表 SB02 ピット計測表

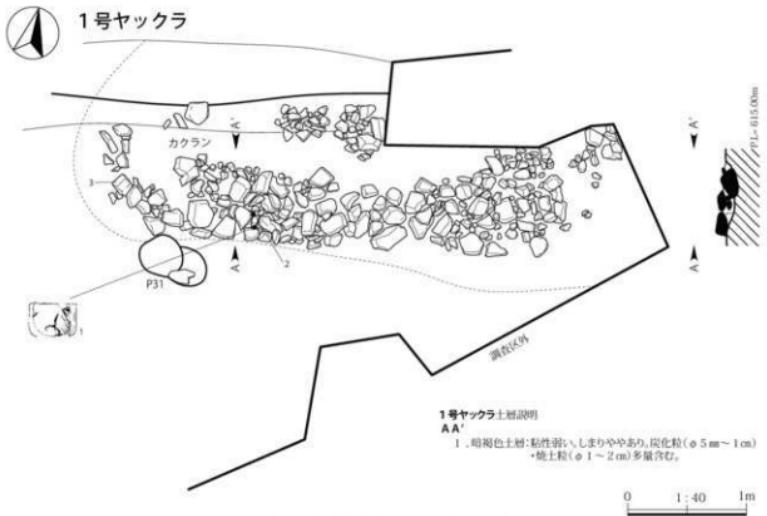
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	23	45	54	44	54	63
短軸長(cm)	23	37	40	40	67	55
深さ(cm)	8	16	28	16	40	38

	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12
長軸長(cm)	38	29	45	31	32	43
短軸長(cm)	33	26	37	27	29	28
深さ(cm)	20	8	24	16	48	25

第57表 SB02 础石計測表

	礎1	礎2	礎3	礎5	礎6	礎7	礎9
長軸長(cm)	50	33	42	70	67	42	56
短軸長(cm)	43	31	38	44	53	35	49
深さ(cm)	22	9	12	6	32	—	41

その他の施設 溝がある。幅や深さを考慮すると排水用の溝と考えられる。**遺物検出状況** 直上が造成の土たが、近世陶磁器もあり、本遺構に伴うものとの分別は難しい状況であったが、溝や検出面直上出土のものを本遺構に伴うものとした。**遺物** 寛永通宝を1点、陶器を3点図示し得た。**備考** 出土遺物や溝に溜まつたAs-A軽石から近世(江戸時代後期)に帰属するものと考えられる。



第388図 1号ヤックラ実測図 (1/40)

(2) ヤックラ

1号ヤックラ (第388・390図／PL 140・142)

位置 4—7区Q—1グリッド (1・2区調査区南東部)。 **重複関係** 本遺構は2号ヤックラと対になることからSB01より新しいと思われる。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は長方形を呈する。規模は長軸390cm、短軸60cm、礫の堆積は18cmの厚さを測る。

主軸方位 東西N—79°—W **遺物** 第390図3はヤックラの蝶と同様に廃棄されていた。石臼1点、磁器2点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期以降）に帰属するものと考えられる。

2号ヤックラ (第389・390図／PL 140・142)

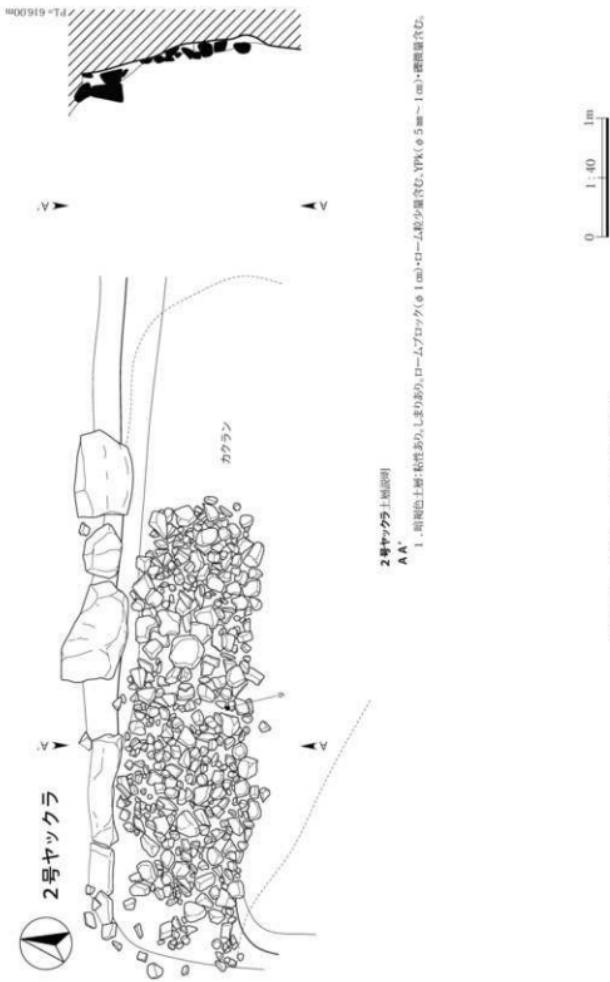
位置 4—7区Q—1グリッド (1・2区調査区南部中央)。 **重複関係** 本遺構はSB01の柱穴のラインにせりだすことからSB01より新しいと思われる。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は長方形を呈する。規模は長軸400cm、短軸100cm、蝶の堆積は15～30cmの厚さを測る。 **主軸方位** 東西N—85°—W **遺物** 陶器4点、磁器2点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期以降）に帰属するものと考えられる。

(3) 土坑

SK01 (第391図)

位置 4—7区Q—1グリッド (1・2区調査区南東隅)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸63cm、短軸58cm、確認面からの深さ34cmを測る。 **主軸方位** N—55°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 平坦である。

遺物 覆土から近世陶磁器が少量出土した。また底面から板状の礫が出土した。遺物は図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期）に帰属するものと考えられる。

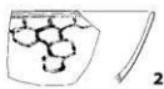


第389図 2号ヤックラ実測図(1/40)

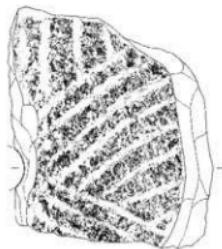
1号ヤックラ



1



2



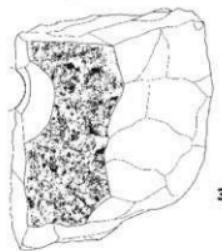
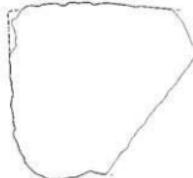
2号ヤックラ



4



5



3



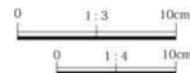
7



9



8



第390図 1・2号ヤックラ出土遺物実測図(1/3・1/4)

SK02 (第 391・398 図／P L 140・142)

位置 4—7 区 P—1 グリッド (1・2 区調査区南部中央より東寄り)。 **重複関係** SBO1- P 5 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 61cm、短軸 56cm、確認面からの深さ 43cm を測る。

主軸方位 N—30°—E **壁面** 北壁は漏斗状に、南壁は概ね外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 2 層の中位に平坦面を持つ礫や寛永通宝などが出土した。覆土からは陶器も出土した。出土遺物のうち寛永通宝 1 点、陶器 1 点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期）に帰属するものと考えられる。

SK03・P 11 (第 391 図)

位置 4—7 区 N—2 グリッド (1・2 区調査区南部中央より西寄り)。 **重複関係** SK03 は P 11 より新しい。 **遺存状態** P 11 は SK03 により東部を破壊される。 **覆土** SK03、P 11 ともに黒褐色土を基調とし自然堆積を示す。 **平面形と規模** SK03 の平面形は不整梢円形を呈し、P 11 は円形を呈する。規模は SK03 が長軸 60cm、短軸 47cm、確認面からの深さ 40cm を測る。P 11 が長軸 40cm、短軸 40cm、確認面からの深さ 57cm を測る。 **主軸方位** SK03 は N—34°—W、P 11 は N—11°—E。 **壁面** SK03、P 11 ともに外傾して立ち上がる。 **底面** SK03、P 11 ともに概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** SK03、P 11 ともに覆土の状況から近世に帰属するものと考えられる。

SK04 (第 391・398 図／P L 142)

位置 4—7 区 P—1・2 グリッド (1・2 区調査区南壁中央より東寄り)。 **重複関係** SBO1- P 8 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 一部が調査区外となる。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、7～11 層は自然堆積のようであるが、1～6 層は縞状の堆積となり人為堆積であろう。 **平面形と規模** 平面形は不整形である。規模は長軸 140cm 以上、短軸 140cm、確認面からの深さ 47cm を測る。 **主軸方位** N—50°—W **壁面**

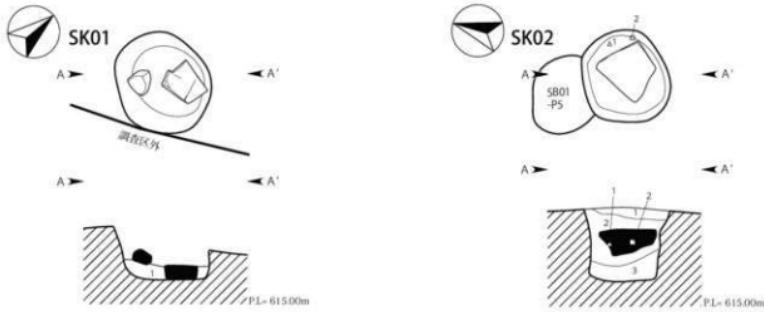
西壁は外傾して立ち上がり、東壁は段状に外傾して立ち上がる。 **底面** 皿状を呈する。 **遺物** 磁器を 2 点図示し得た。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期）に帰属するものと考えられる。

SK05 (第 392・398 図／P L 140・142)

位置 2—97 区 N—20 グリッド (1・2 区調査区北部中央より西寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形である。規模は長軸 80cm、短軸 70cm、確認面からの深さは 14cm を測る。 **主軸方位** N—79°—E **壁面** 西壁は段状に立ち上がり、東壁はやや外傾して立ち上がる。 **底面** 桶のタガのようなものが出ており、5 層部分の底面が窪み、全周する。桶の痕跡と思われる。 **遺物** 磕が土坑の上位から中位にかけて見られた。寛永通宝や煙管の吸い口が底面から出土している。出土遺物のうち寛永通宝 1 点、煙管 1 点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期）に帰属するものと考えられ、さらに遺物の出土状況や礫の集中から墓であった可能性が高いだろう。

SK07 (第 392 図／P L 141)

位置 2—97 区 N—20 グリッド (1・2 区調査区北部西寄り)。 **重複関係** SDO1 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 磕主体の黒褐色土を基調とし、人為堆積を呈する。 **平面形と規模** 平面形は円形を示す。規模は長軸 100cm、短軸 90cm、確認面からの深さは 33cm を測る。 **主軸方位** N—46°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 陶磁器が出土しているが図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から近世（江戸時代後期）に帰属するものと考えられ、さらに礫の集



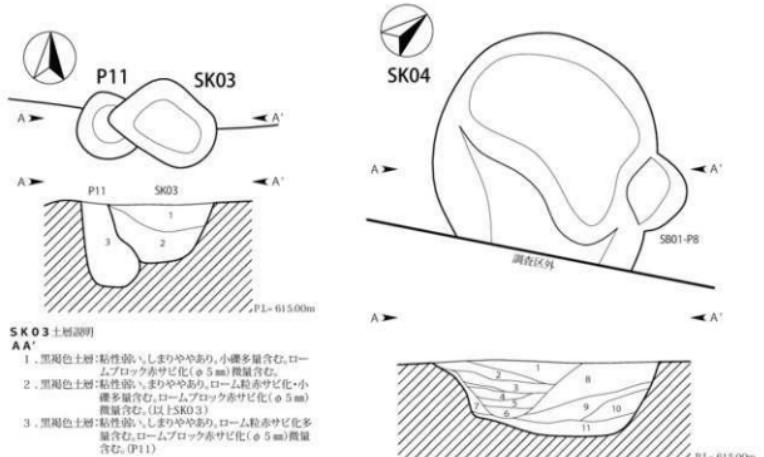
SK01 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 1~2 cm)・ローム粒・礫多量含む。

SK02 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5 mm) 多量含む。

PL= 615.00m

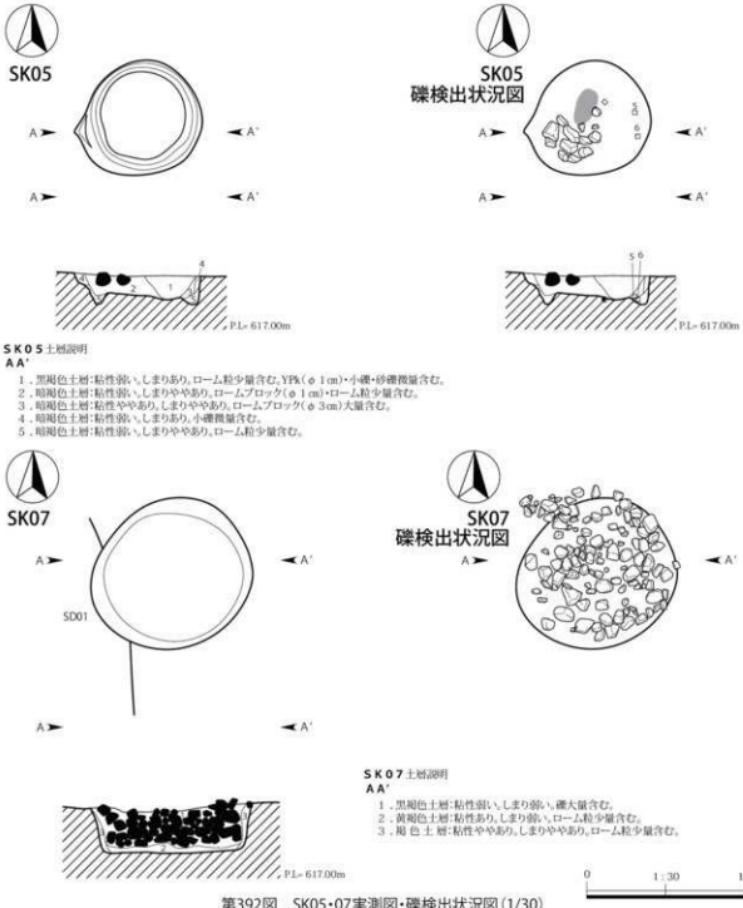


SK04 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ロームブロック(φ 1~3 cm) 多量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 1~3 cm) 多量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。ロームブロック(φ 1 cm) 微量含む。
7. 黄褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ロームブロック(φ 10 cm) 大量含む。
8. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。YK(φ 1 cm) 多量含む。
9. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5~10 cm) 多量含む。
10. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5~10 cm) 大量含む。
11. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5~10 cm) 大量含む。

0 1:30 1m

第391図 SK01~04実測図(1/30)



第392図 SK05・07実測図・碓検出状況図(1/30)

中から墓であった可能性が高いだろう。

SK08 (第393図)

位置 2-97 区N・O-20 グリッド(1・2区調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。
覆土 碓を含む暗褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整梢円形。規模は長軸 155cm、短軸 106cm、確認面からの深さ 31cmを測る。 **主軸方位** N-77°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 特に碓の集中部がくぼみ、V字状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から近世に帰属するものと考えられ、さらに碓の集中から墓であった可能性も考慮できる。



第393図 SK08～10実測図・SK08碰検出状況図(1/30)

SK09 (第393図)

位置 4-7区0-1 (1・2区調査区南部中央)。 **重複関係** SB01-P3、P14と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 検出面の辺りは造成により破壊されるが、下位は残存する。**覆土** 褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は閣丸長方形を呈する。規模は長軸97cm、短軸68cm。確認面からの深さ25cmを測る。**主軸方位** N-80°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** ほぼ平坦である。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から近世に帰属するものと考えられ、SB01-P3より新しいことからSB01以降に帰属するものであろう。

SK10（第393図）

位置 2-97区N-16グリッド(1・2区調査区中央部東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 暗褐色土と褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。長軸は62cm、短軸は47cm、確認面からの深さは18cmを測る。 **主軸方位** N-8°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 中央部が盛り上がる。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から近世に帰属するものと考えられる。

SK11（第394図）

位置 2-97区O-15グリッド(1・2区調査区北東端)。 **重複関係** SI01と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 上位は造成により破壊される。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸163cm、短軸130cm、確認面からの深さ21cmを測る。

主軸方位 N-20°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から近世以降に帰属するものと考えられる。

SK16（第394図）

位置 2-97区O-17・18グリッド(1・2区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 上層は暗褐色土、下層は礫主体の黒褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸90cm、短軸69cm、確認面からの深さは46cmを測る。 **主軸方位** N-10°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土から現代のものが出土しているが、礫の集中が認められることから移築された墓跡の可能性も考慮したい。帰属時期は近世以降であろう。

SK18・19（第395図）

位置 2-97区O-19グリッド(1・2区調査区南寄り)。 **重複関係** SK19がSK18より新しい。 **遺存状態**

SK18の上位がSK19により破壊される。SK19は良好である。 **覆土** 両遺構とも暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** SK18の平面形は楕円形を呈し、SK19は不整形を呈する。規模はSK18が長軸45cm、短軸35cm、確認面からの深さ24cmを測る。SK19が長軸110cm、短軸98cm、確認面からの深さ39cmを測る。 **主軸方位** SK18はN-58°-E、SK19はN-19°-E。 **壁面** SK18は外傾して立ち上がる。SK19は北壁が外傾して立ち上がり、南壁は段状に立ち上がる。 **底面** SK18は北に向かって下り、SK19は概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から近世以降に帰属するものと考えられる。

SK20（第395図）

位置 2-97区O-19グリッド(1・2区調査区南壁中央よりやや東寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態**

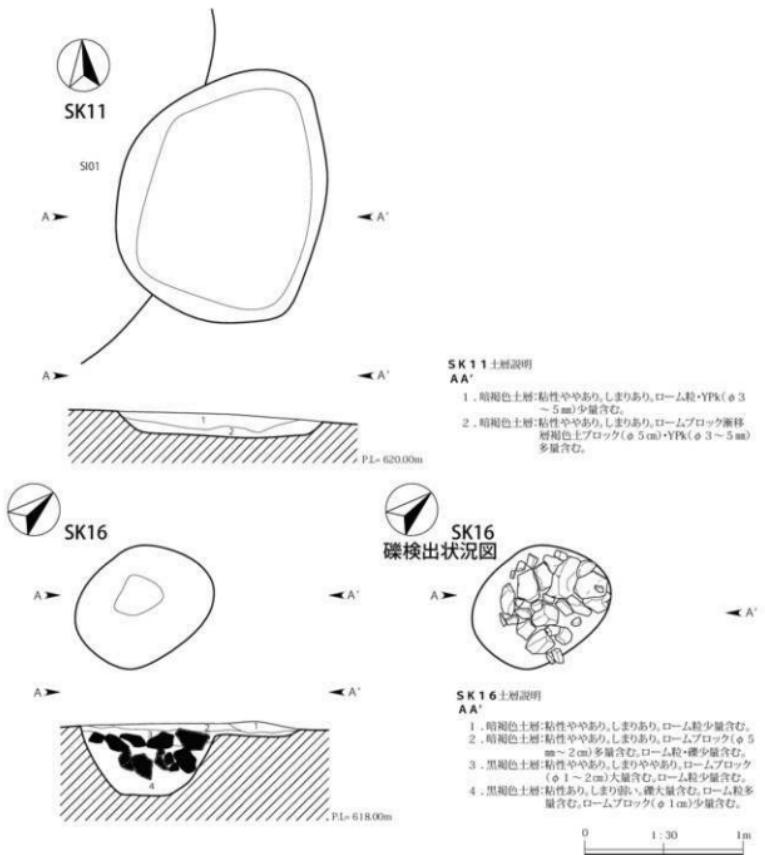
段切りにより南側が、根の貫入により底面の一部も破壊される。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は長方形を呈する。規模は長軸57cm以上、短軸68cm、確認面からの深さ44cmを測る。 **主軸方位** N-16°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹する。 **遺物** なし。

備考 覆土の状況から近世以降に帰属するものと考えられる。

SK25（第395図）

位置 2-97区P-18グリッド(1・2区調査区南部東寄り)。 **重複関係** SD02と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 磯主体の暗褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **平面形と規模**

平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸176cm、短軸100cm、確認面からの深さ46cmを測る。 **主軸方位** N-70°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 現代のもの

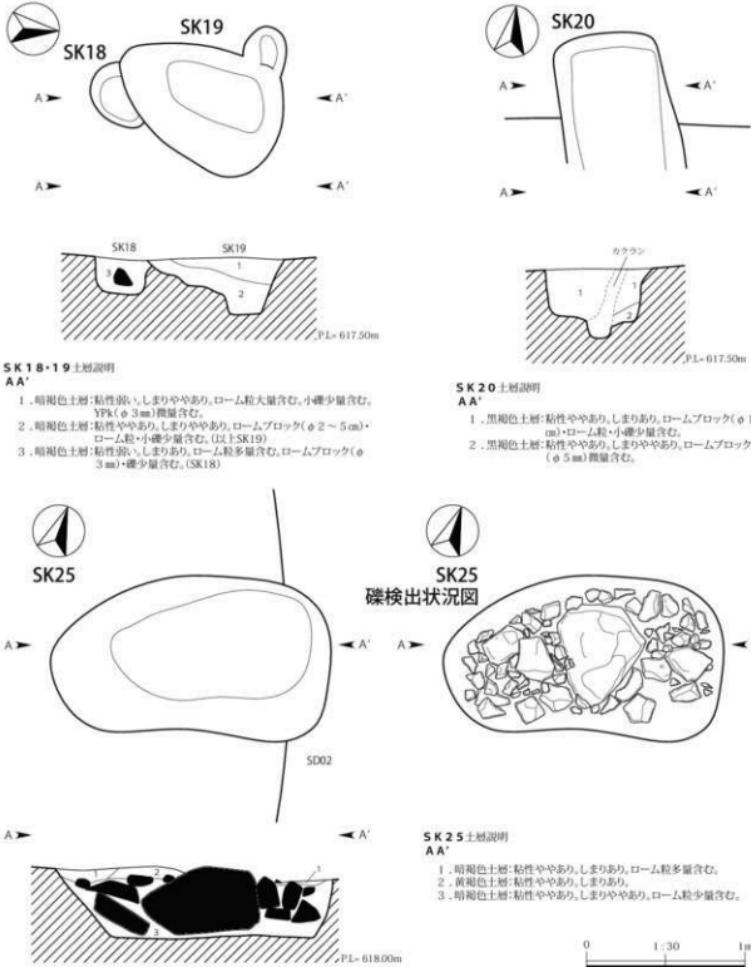


第394図 SK11・16実測図・SK16磁検出状況図(1/30)

も出ているが、礫の集中が認められることから移築された墓跡の可能性も考慮したい。帰属時期は近世以降であろう。

SK26 (第396図)

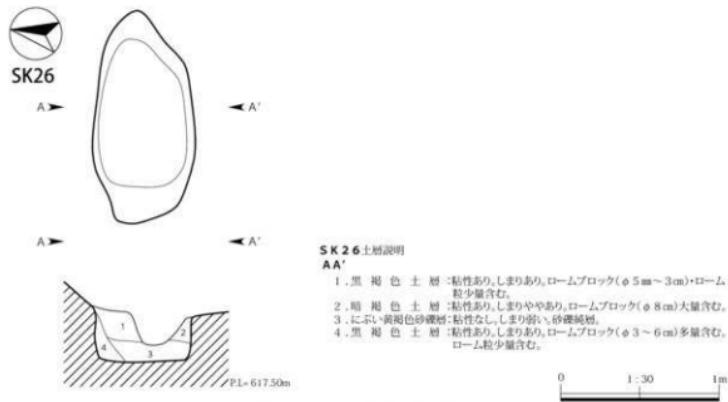
位置 2-97区M-18グリッド(1・2区調査区南部中央)。 **重複関係** SB02の溝と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上位はSB02の溝により破壊される。 **覆土** 上層は黒褐色土、暗褐色土、下層にはぶい黄褐色砂礫を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。長軸133cm、短軸64cm、確認面からの深さ35cmを測る。 **主軸方位** N-79°-E **壁面** 概ね直立する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から近世と思われるが、SB02よりは古い。



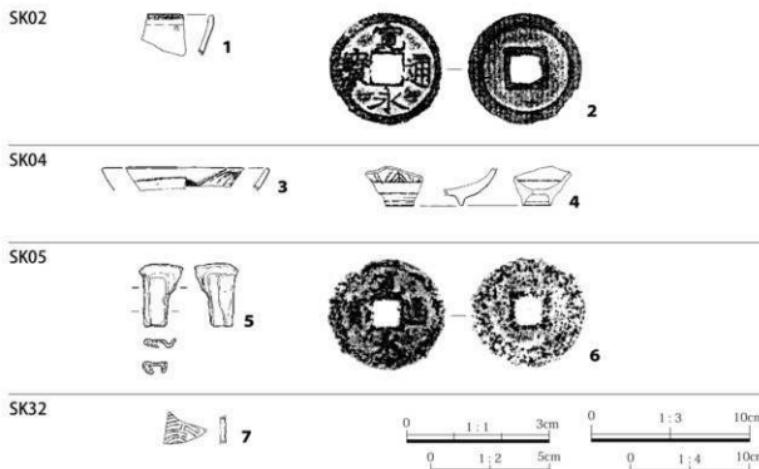
第395図 SK18~20・25実測図・SK25磁検出状況図(1/30)

(4) ピット (第375・398図／PL 142)

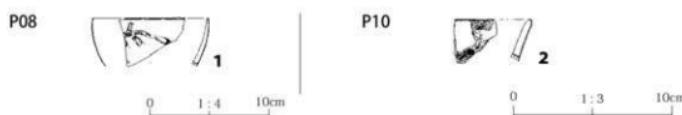
近世に帰属すると考えられるピットは43基確認された。これらは全て1・2区調査区に位置する。特にSB01付近で見られたピットはSB01に関連するものか、別な建物を構成するものである可能性が考えられよう。特にP08やP10では近世陶磁器が出土している。ピットの平面形や規模などの諸属性は第58表に記載する。



第396図 SK26実測図(1/30)



第397図 近世土坑出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3・1/4)



第398図 近世ピット出土遺物実測図(1/3・1/4)

第58表 林中原II遺跡X近世ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考	遺構名	位置	規模(cm)			覆土	備考	
			長軸長	短軸長	深さ					平面形	長軸長	短軸長	深さ		
P01	4-7区P-2	楕円形	61	42	23	B		P27	4-7区O・P-1・2	楕円形	42	35	44	B	
P02	4-7区O-2	楕円形	37	30	28	B		P28	4-7区O-1	円形	41	40	39	B	
P03	4-7区P-1	楕円形	42	38	21	B		P29	4-7区O・P-1・2	楕円形	61	40	21	B	
P04	4-7区P-1	楕円形	39	37	38	B		P30	4-7区O-1	円形	48	45	16	C	
P05	4-7区P-1	楕円形	44	40	45	B		P31	4-7区P・Q-1	円形	36	35	30	B	
P06	4-7区P-1	楕円形	42	38	42	B		P32							S801-P3
P07	4-7区O・P-1・2	楕円形	42	33	40	C		P33	4-7区O-2	楕円形	43	37	33	B	
P08	4-7区O・P-1	楕円形	67	48	36	C		P34	4-7区O・P-2	円形	35	33	30	B	
P09	4-7区P-1	楕円形	28	25	40	B		P35							S801-P5
P10	4-7区P-1	楕円形	30	25	53	B		P36	4-7区P-1	楕円形	48	37	22	E	
P11	4-7区O-2	円形	40	40	57	B		P37	4-7区O・P-1	楕円形	48	38	20	C	
P12	4-7区O-2	円形	38	37	32	C		P38	4-7区N-1	楕円形	35	32	39	B	
P13	4-7区O・P-1・2	円形	29	28	46	B		P39	4-7区P-1	円形	33	30	31	D	
P14	4-7区O-1	楕円形	35	28	26	C		P40							S801-P6
P15	4-7区O・P-1・2	楕円形	66	60	64	B		P41							S801-P7
P16	4-7区O・P-1・2	楕円形	35	33	28	C		P42	4-7区N-1	楕円形	45	43	52	B	
P17	4-7区P-1	円形	36	35	59	B		P43	4-7区N-1	楕円形	42	37	30	C	
P18								P47							S901P6
P19	4-7区P-1	不整形	48	<20>	23	B		P52	2-97区O-19	楕円形	35	31	26	C	
P20								P53	2-97区O-18	楕円形	41	29	19	C	
P21	4-7区P-1	円形	26	25	51	B		P54	2-97区O-18	楕円形	30	23	11	C	
P22	4-7区P-1・2	楕円形	27	23	27	B		P55	2-97区N-18	楕円形	40	33	15	C	
P23	4-7区P-1	円形	36	35	42	C		P56	2-97区N-18	楕円形	45	40	24	C	
P24								P57	2-97区M-19	円形	33	32	9	C	
P25								P58	2-97区M-18	円形	30	30	15	C	
P26	4-7区P・Q-1	楕円形	51	47	59	B		P58	2-97区N-18	円形	25	20	10	C	

※ A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 褐色土 E : にふい黄褐色土

第4節 その他の遺構と遺物

(1) 柱列

SA01 (第399図／PL 141・142)

位置 2-86区R-20、2-96区R-1グリッド (3~5区調査区北西部)。重複関係 なし。遺存

状態 良好。規模 南北7.5mの間に5基のピットが存在する。主軸方位 N-3°-E 概要 周囲には本遺構と並びを供するようなピットは検出しな

かった。その他の施設 特に明記すべき施設は見

あたらなかった。遺物検出状況 P4の覆土から棒状鉄製品が出土した以外は、特に遺物は出土しな

かった。遺物 棒状鉄製品を1点図示し得た。備考 覆土には近現代のものが含まれていたことや、しま

りが弱かったことから近現代に帰属すると考えられるが、P2に柱痕跡が見られたことや、ピットが並びを持

つことからあえて報告した次第である。

(2) 溝跡

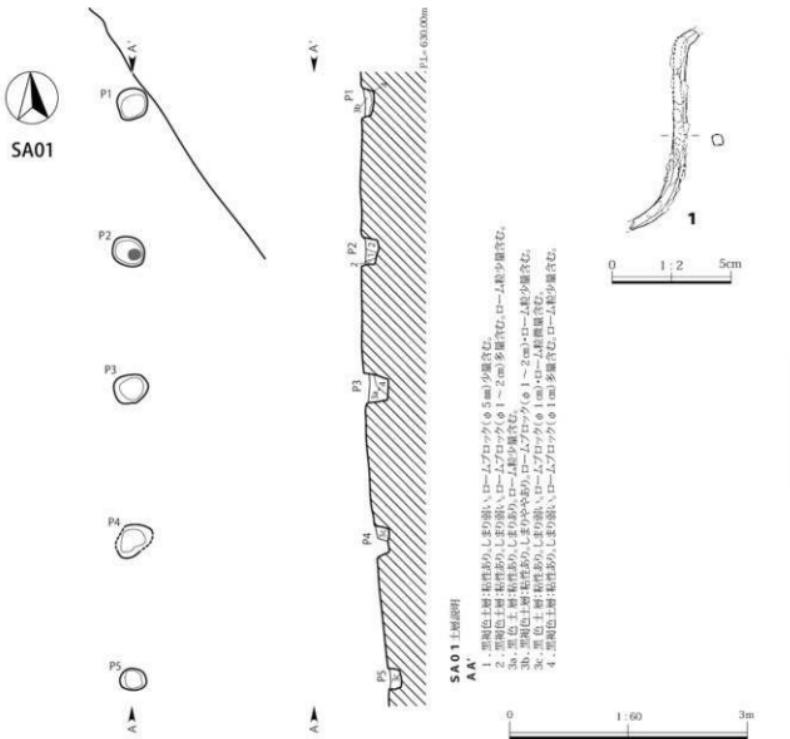
SD01 (第400・402図／PL 141・142)

位置 2-97区N・O-20、4-7区N・O-1グリッド (1・2区調査区西部)。重複関係 SK07と重複し、本遺構の方が古い。遺存状態 埋没谷へと注ぐようで、埋没谷内に入ると本遺構の痕跡が見当たらなくなる。北部は段切りにより破壊されている。覆土 黒色土、黒褐色土、暗褐色土、明褐色土を基調とし、自然堆積を示す。規模 長軸 5.57m、短軸 80cm~1.50m、確認面からの深さ 18cm~37cmを測る。主軸

方位 N-1°-E 遺物 繩文中期の土器片が散見される。このうち繩文土器1点を図示し得た。備考

底面形状や、幅が一定しないことなどから自然流路と思われる。繩文時代中期以降のどこかで埋没しはじめ、

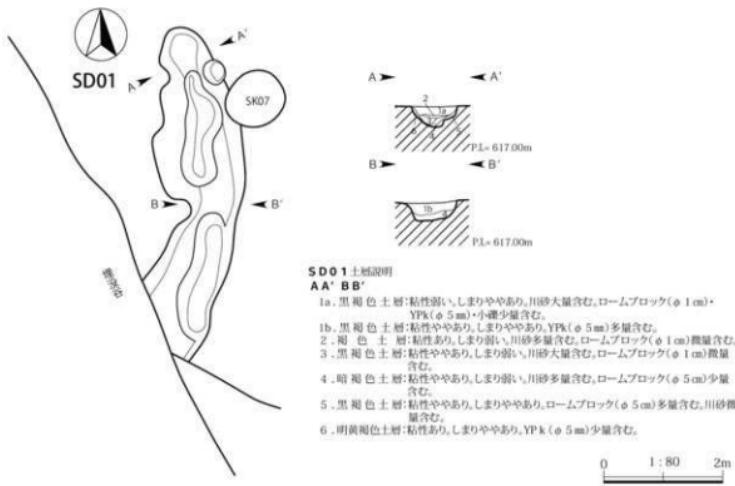
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
長軸長(cm)	43	44	43	47	33
短軸長(cm)	40	37	35	(38)	28
深さ(cm)	16	22	31	16	19



近世の墓と思われる SK07 構築以前には完全に埋没していたと考えられる。また、埋没谷内になると本遺構の痕跡が見られないことから、谷が埋まりきった頃にも流路として機能していたとは考え難いだろう。だがいずれにしても、いつまで稼働していたのかを明確に述べることは難しい。近世以前まで稼働していた可能性があると述べるに留まる次第である。

SD02 (第401・402図／P L 142)

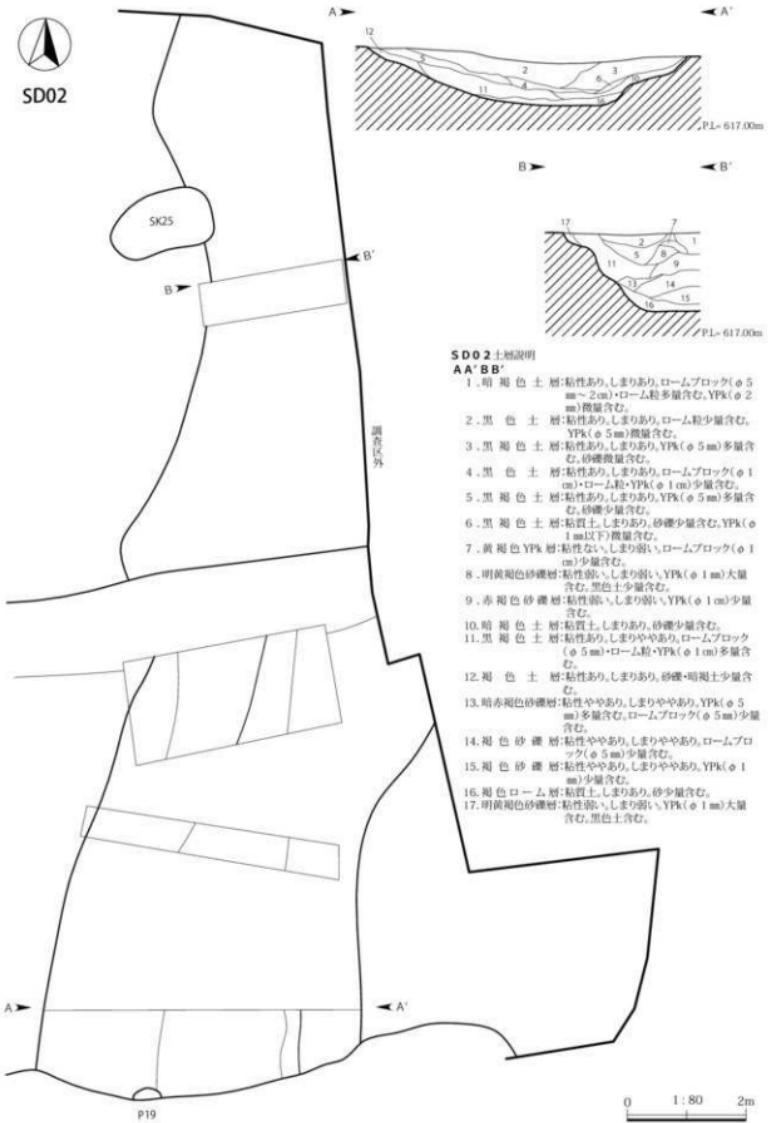
位置 2-97 区 P-17 ~ 20 グリッド (1・2区調査区東部)。 **重複関係** SK25、P-19 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南部は段切りにより破壊される。北部は調査区外となる。 **覆土** 黒褐色土、暗褐色土を基調とし、下層になると砂礫が目立つようになる。自然堆積を示す。 **規模** 長軸 17.90m、短軸 2.50m ~ 4.70m、確認面からの深さは 13cm ~ 80cm を測る。 **主軸方位** N-5°-E **遺物** 陶磁器片がわずかに出土した。このうち陶器を 1 点図示し得た。 **備考** 底面形状が一定しないことなどから自然流路と思われる。本遺構が存在すると、SB01 が建築できないことから、SB01 が建てられた時には埋没していたと考えられる。ただし、SD01 とは規模が違うので、完全に埋没した時期が同じになるとは限らないだろう。



第400図 SD01実測図(1/80)

(3) 埋没谷 (第403～406図／PL 141～143)

位置 SP. A～Cの土層断面の観察及び、断面確認用トレチの状況から、埋没谷は3・4区調査区北壁から1区西部・南部・東部にも及ぶ。**重複関係** 谷の埋没後にSB01・02など近世の遺構が展開しているようである。**遺存状態 良好。** **覆土** 広範囲に及ぶため細かな差異はあるが、概ね黒褐色土を基調とし、途中にAs-Kkのブロックを含む層が1区や4区で見られた。1～5区全域で自然堆積を示す。**底面** 3・4区で谷全体を断ち削ることが出来た。ただし掘り下げるほど湧水が多く危険になってきたので、完全に下までは掘りきっていない。また、3・4区の中央には側溝があり、これを壊すことは出来なかつたので、この部分についても調査していない。この状況での底面の様子は全体的に、皿形を呈する谷で、急峻な崖と言ふほどではなかった。**遺物** 1・2区においては上層で陶器類も出土したが、これは造成により混入したものであろう。3～5区ではほとんど出土していない。1・2区で縄文土器が少量出土し、3～5区に至ると稀に縄文土器が出土する程度である。石鏸は3区で出土した。また、4区では土師器・須恵器の小片がAs-Kkを含む層でわずかに出土した。これらのうち縄文土器12点、土師器1点、須恵器2点、内耳銅と思われるもの1点、陶器2点、磁器3点、泥面子1点、凹石1点、石鏸2点、打製石斧1点を図示し得た。**概要** 埋没谷の広がりを考慮すると、1・2・3・5区調査区は谷に囲まれた微高地状の地形であったことがうかがえる。出土した縄文土器を概観すると、前期の諸磯b式、中期初頭の五領ヶ台II式は、ごくわずかである。加曾利E式、曾利式、郷土式土器は若干多い。のことから埋没の開始は縄文時代中期以降と考えられ、埋没過程でAs-Kkを含む層を形成する。そしてSB01・02のような近世建物が展開する頃には完全に埋没していたのだろう。そして、近現代の造成により上層に近世陶磁器が混入したものと考えられる。



第401図 SD02実測図(1/80)



第402図 溝跡出土遺物実測図(1/3)

(4) ピット (第373・375図)

近現代に帰属すると考えられるピットは36基確認された。特に3~5区のものは、調査以前の土地利用の状況から植栽痕である可能性もある。ピットの平面形や規模などの諸属性は第60表に記載する。

第60表 林中原II遺跡X近現代ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)		覆土	備考
			長軸長	短軸長		
P44	2-97区M-15	楕円形	47	44	21	B
P45	2-97区M-15	楕円形	40	35	27	B
P46	2-97区N-15	円形	45	43	25	B
P48	2-97区N-15	円形	24	23	13	B
P49	2-97区O-15	円形	21	20	19	B
P50	2-97区O-15	円形	18	18	12	B
P51	2-97区N-14	楕円形	57	52	82	C
P59	2-97区N-15	楕円形	53	45	43	D
P60	2-87区D-16	楕円形	52	48	14	B
P61	2-87区D-19	円形	57	50	23	B
P62	2-87区D-E-19	円形	50	46	14	B
P63	2-87区E-19	楕円形	52	43	23	B
P64	2-87区C-18	円形	25	20	5	B
P65	2-87区E-18	楕円形	38	35	13	B
P66	2-87区D-19	楕円形	40	34	14	B
P67	2-96区R-1	円形	32	31	22	B
P68	2-96区R-1	円形	24	24	21	B
P69	2-96区S-1	不整形	30	<20	38	B
P70	2-96区S-1	楕円形	37	25	17	B

示 A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 褐色土 E : にぶい黄褐色土

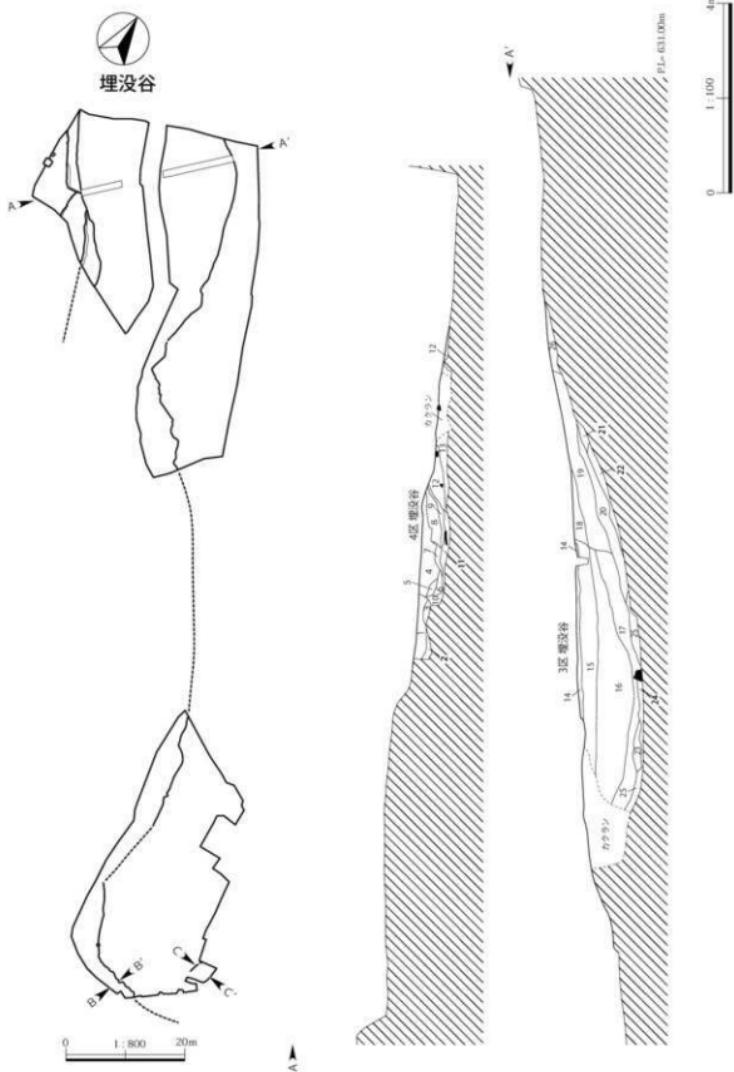
第5節 遺構外出土遺物 (第407図／PL 143)

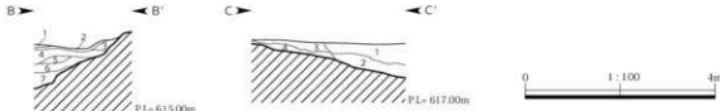
特に1・2区で遺物を採集できた。とりわけ近世陶磁器が目立ち、土師器や須恵器、中世陶磁器などは見られなかった。

近世陶磁器のほとんどが、江戸時代後期のものと考えられ、SB01や02の帰属年代に近いものであると考えられる。おそらくはSB01・02由来の遺物と考えられる。

なお第407図14は色絵付けの盃と考えられ、絵付けがかなり剥げてしまっていたが、実測すると女性の絵が現れた。いわゆる花魁文と思われ、幕末～明治時代の所産であると考えた。

第403图 埋没谷实测图①(1:100:1:800)





埋没谷土層説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。礫大量含む。
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまり弱い。ロームブロック（φ 5mm～1cm）多量含む。礫少量含む。
3. 黒褐色土層：粘性ややあり。にごり・黄褐色砂礫大量含む。
4. 黒褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。炭化物（φ 3mm）・鉄・YPh（φ 2～3mm）・砂・Ae-Kk（φ 1cm）微量含む。
5. 黒褐色土層：粘性あり、しまりややあり。にごり・黄褐色土層・砂少量含む。
6. 黒褐色土層：粘性あり、しまりややあり。ローム粒少量含む。
7. 黒褐色土層：粘性ややあり。砂多量含む。
8. 黒褐色砂質土層：粘性ややあり、しまり弱い。白色粒（φ 5mm）少量含む。礫微量含む。
9. 黒褐色砂質土層：粘性ややあり。にごり弱い。As-KK（φ 2～3cm）大量含む。
10. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。にごり・黄褐色砂礫多量含む。礫少量含む。
11. 黑褐色土層：粘性ない。しまりややあり。砂多量含む。
12. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。礫大量含む。YPh（φ 5mm）微量含む。
13. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。にごり弱い。砂多量含む。（以上4区埋没谷）
14. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。YPh（φ 1～2cm）少量含む。
15. 黑褐色土層：粘性あり、しまり弱い。ローム粒・YPh（φ 1～5mm）少量含む。
16. 黑褐色土層：粘質土。しまりあり。ロームブロック（φ 5mm）・ローム粒少量含む。
17. 黑褐色土層：粘質土。しまりあり。砂微量含む。
18. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。YPh（φ 0.5～1cm）多量含む。
19. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。YPh（φ 1mm～1cm）少量含む。白色粒少量含む。砂微量含む。
20. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。YPh（φ 1mm～2cm）大量含む。
21. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。YPh（φ 1mm～2cm）大量含む。
22. にごり・黄褐色土層：粘性ややあり。にごり弱い。YPh（φ 0.5～2cm）大量含む。
23. 黑褐色砂質土層：粘性ややあり、しまり弱い。砂少量含む。
24. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。砂多量含む。
25. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。砂・白色粒（2mm）少量含む。
26. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。YPh（φ 2mm～3cm）多量含む。（以上3区埋没谷）

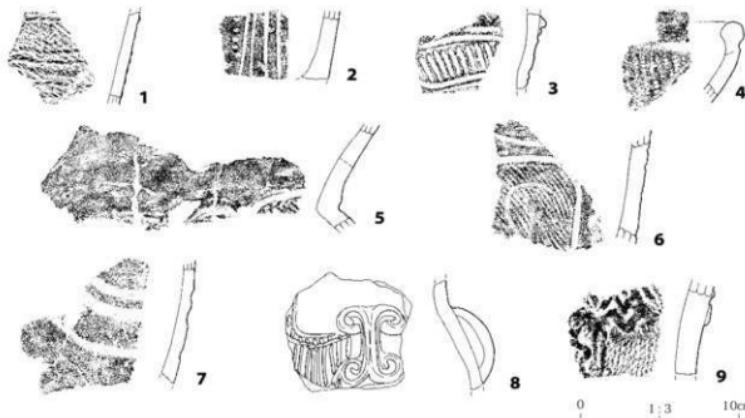
BB'

1. 黒褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。YPh（φ 5mm）微量含む。
2. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。Ae-Kk少量含む。砂礫少量含む。
3. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。砂微量含む。
4. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ 5mm）・砂礫・小礫少量含む。
5. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。小礫・礫多量含む。
6. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまり弱い。小礫多量含む。
7. 黑褐色砂質土層：粘性弱い。しまりあり。小礫多量含む。

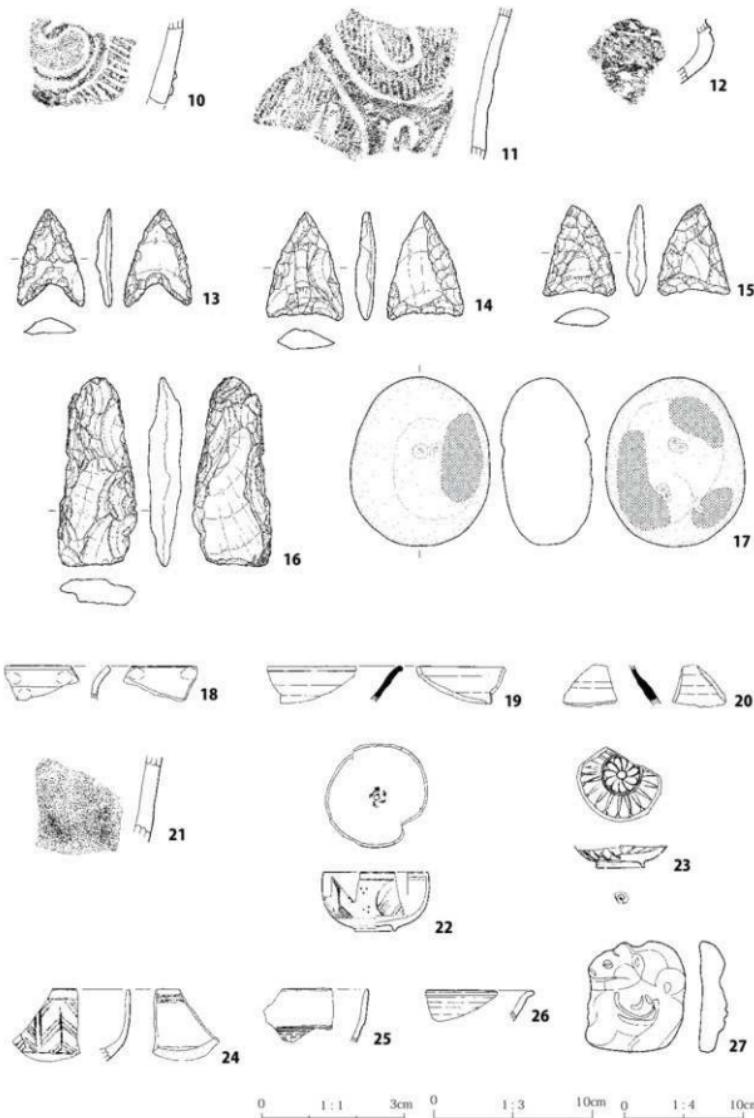
CC'

1. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまり弱い。炭化物（φ 2mm）・YPh（φ 5mm）微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまり弱い。YPh（φ 5mm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまり弱い。YPh（φ 5mm）微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPh（φ 5mm）微量含む。

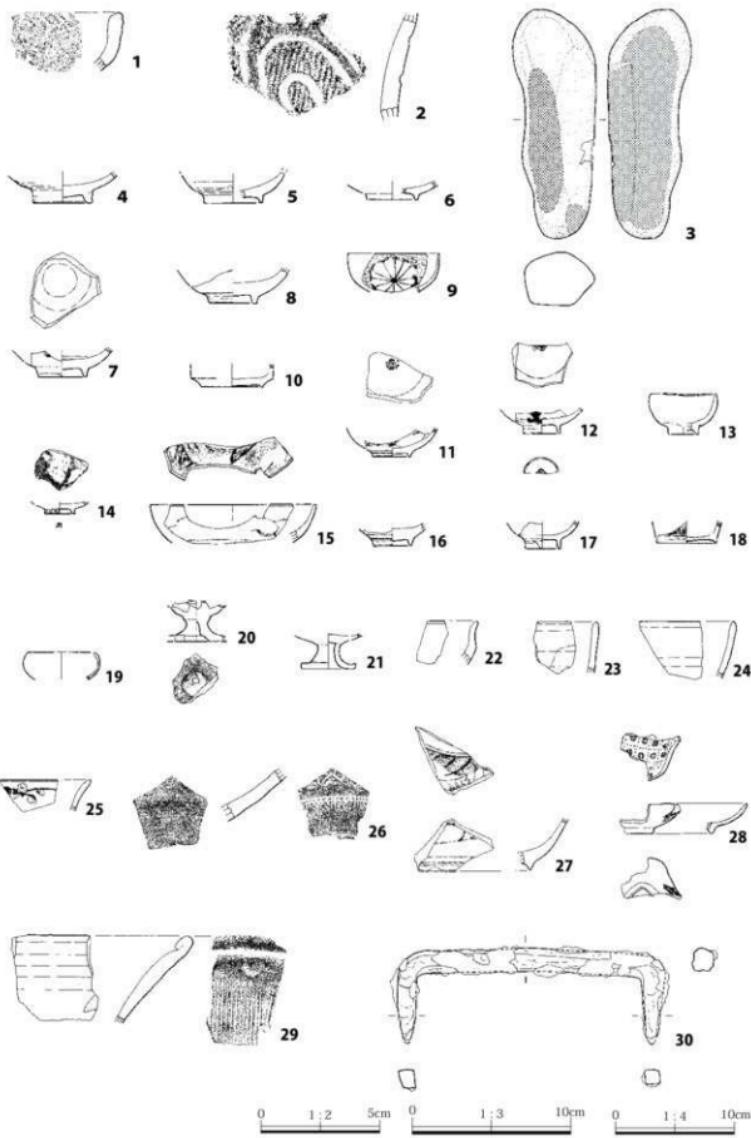
第404図 埋没谷実測図②(1/100)



第405図 埋没谷出土遺物実測図①(1/3)



第406図 埋没谷出土遺物実測図②(1/1・1/3・1/4)



第407図 遺構外遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

第5章 まとめ

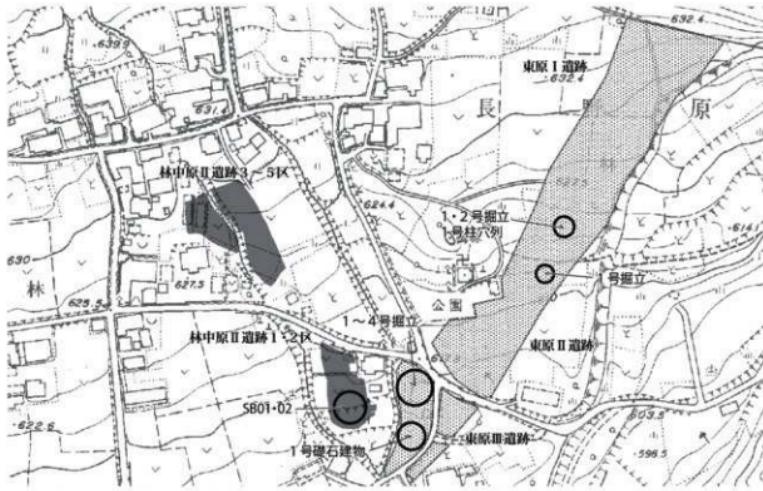
本調査区は1・2区に遺構が集中し、3～5区は明確に遺構と呼べるものはほとんど存在しない状況であった。2区調査区北東隅に縄文時代中期の住居があり、この部分は斜面が一旦、平坦になる場所である。わずかな平坦部をもを利用して当時の人々が暮らしていたことが窺える。さらに、町教委調査の住居と時期が近く、同時期の集落である可能性が高い（長野原町教育委員会 2009）。なお周囲の近世遺跡との比較については考察で述べるが、本調査区の100～150mほど東隣で東原I・II・III遺跡の調査が事業団によって行われている（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010）。東原III遺跡では近世の掘立柱建物跡などが出でおり、出土遺物も本調査区と大差ないものが多いことから、同時期の集落であると言えよう。

埋没谷を立ち割ってみると、平安時代の浅間山の噴火にともなうAs-Kkの堆積がありAs-Kk降下時にも谷が完全に埋没していなかったことがうかがえる。土師器・須恵器の小片が採集できた。そしてSB02の溝が埋没谷に及んでいることから、近世の建物が建てられる頃には埋没していたと考えられる。

また、墓であった可能性のある土坑がいくつか検出された。SK25が墓だとすれば、上原II遺跡SK36と規模が似る。他に桶のようなものの痕跡が出ているSK05や礫の集中するSK07・08・16などがある。なお、木桶を埋設していた土坑は、東原III遺跡61区1号土坑が付近の事例として挙げられよう。

第61表 林中原II遺跡X繩文住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m × m)				柱配置	炉	周溝	付帯施設	遺物			時期	
		長軸	短軸	便南	面積					土器	石器	その他		
SK01	N-90°-E	5.9	5.35	0.37	21.24	6本	北寄り	石圓いか	全周	—	(○)	×	黒曜石片が出土	縄文中期後半



第408図 林中原II遺跡と東原I・II・III遺跡位置図及び中世～近世建物検出位置概略図(1/2,500)

参考文献

- 長野原町教育委員会 2009 『町内遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財調査報告第18集
 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『東原I・II・III遺跡』ハッカダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集

第62表 林中原II跡地×出土遺物観察表

484

SI01出土遺物観察表	査定No.	標高	法面高・口径・直径(cm)	特徴(形態・方法)	地質	断土・材質等	色調(外板・内板)	備考	
	386.1	142	周之原・ 谷底	(5.1) / - / -	斜面、曲線状の凹部を施文化する。内外面ともにナット。	良好	白色 白色・黒色	断土・材質等(外板)	SI01 01
	386.2	142	周之原・ 谷底	(4.7) / - / -	同じの異なる質粒の外板と内板を組み立てる傾向があるう。外板はナット。内板はナット。	良好	白色 白色・黒色	断土・材質等(外板)	SI0114
	386.3	-	周之原・ 谷底	(4.2) / - / -	無之。内外面は圓柱切面。内面は楕円切面。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SI0112

縄文時代土坑出土遺物観察表

査定No.	標高	法面高・口径・直径(cm)	特徴(形態・方法)	地質	断土・材質等	色調(外板・内板)	備考	
381.1	142	周之原・ 谷底	(4.2) / - / -	斜面の底が削り立つ。断面はスリット状。また、底部、側面、内面は楕円切面。	良好	白色 白色・黒色	断土・材質等(外板)	SIK.14

縄文時代土坑出土遺物観察表

査定No.	標高	法面高・口径・直径(cm)	特徴(形態・方法)	地質	断土・材質等	色調(外板・内板)	備考	
386.1	142	周之原・ 谷底	(1.7) / <1.7> / -	(左)断面の外側面、側面、底面、正面の外側面と内側面を施文化する。 (右)直ぐに外側面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SIK.02 桧山田
387.1	142	周之原・ 谷底	(6.5) / - / -	直ぐにしく斜めの直線状、斜面・底面とも外側面が外側の1/4削除	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SIK.02 桧山田
387.3	-	周之原・ 谷底	(3.2) / - / -	斜面・底面・正面に外側面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SIK.02 桧山田
387.4	142	谷底	1.2m / <0.1> / 0.7	斜面・底面を削る。	-	-	-	SIK.02 桧山田

ヤツクカラ出土遺物観察表

査定No.	標高	法面高・口径・直径(cm)	特徴(形態・方法)	地質	断土・材質等	色調(外板・内板)	備考	
390.1	142	組合・横 谷底	(5.5) / <1.8> / -	(左)斜面小丸端、側面、底面、正面の斜面などはどく。外板は削除され、内板は削除されない。 (右)直ぐに斜面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	1月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.2	142	組合・横 谷底	(4.5) / - / -	(左)斜面、側面、底面、外側面を削る。右側は1.8m削除。側面を直すと直ぐに削る。 (右)直ぐに斜面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	1月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.3	142	右端品・ 斜面	1.1m (1.27) / -	斜面の端部、わざと直す。斜面の端部が片手でなく、中心	-	-	-	1月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.4	142	側面・斜 谷底	(2.1) / - / 2.8	かねてと思われるが、斜面の直すと直すと削る。斜面・底面・側面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.5	142	組合・谷口	(2.3) / - / 4.2	斜面、側面、底面外側削り。外側面の端部が削除される。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.6	142	周辺・斜 谷底	(1.4) / - / 9.0	包み込みの斜面の上は斜面を削り立てる。斜面と直すと直すと削る。斜面は直すへとデータ。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.7	142	周辺・斜 谷底	(3.9) / - / -	側面・底面とも外側面を削る。斜面にめぐらし、斜面にめぐらし削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.8	142	周辺・斜 谷底	(5.2) / - / -	外側面とともに直すと直すと削る。斜面は直すへとデータ。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除
390.9	142	組合・斜 谷底	(1.9) / - / -	斜面・底面、周辺、谷口、1.7m ~ 1.8m削除する。外側は削除される。内面は直すによる深付け、内面には削子。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	2月ヤツカラ 直ぐに削除して削除

近世土坑出土遺物観察表

査定No.	標高	法面高・口径・直径(cm)	特徴(形態・方法)	地質	断土・材質等	色調(外板・内板)	備考	
397.1	142	周辺・底 谷底	(2.5) / - / -	側面・底面とも外側面を削り立てる。斜面を削る。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SIK.02
397.2	142	谷底	1.2m / <0.1> / 0.7	斜面・底面とも外側面を削る。	-	-	-	SIK.02
397.3	142	組合・底 谷底	(1.9) / <1.40> / -	斜面・底面、周辺、西側面ともに直すと直すと削る。外側は直すから、内側は直すなどと書かれている。	良好	白色 白色	断土・材質等(外板)	SIK.02

307. 4	142.	磁器・碗	(2.4) / - / -	丸錐の高台形。凹形。縁部、底部、内腹ともに直線引出物はない。青磁、施釉、底部に削痕。	良好	灰白	泥質	織口・青白(底)	S004
307. 5	142.	磁器・盤	(2.6) / <9.0> / -	内腹は、丸錐みに削痕。A面とC面が平行で、底部は斜面である。	-	-	-	織口・青白(底)	S005
307. 6	142.	磁器・盤	往2.3 / 9.02 / R.06.1	平底。E面・F面は、斜面。外腹は削痕と縦割れがある。	-	-	-	青白	S005
307. 7	-	陶器・盤	(1.8) / - / -	圓錐・素面。底部に削痕。	-	灰白	泥質	青白(底)	S012
近世ヒツト出土遺物観察表									
308. 1	142.	磁器・碗	法目・高足 / 11F - 高足 / (ma)	浅鉢。内腹は、丸錐みに削痕。A面とC面が平行で、底部は斜面である。	良好	灰白	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	P08
308. 2	142.	陶器・碗	(2.6) / - / -	内腹及びD面は削痕。外腹は削痕と縦割れがある。	良好	灰白	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	P10
SA01 出土遺物観察表									
309. 1	142.	磁器・高足	法目・高足 / 11F - 高足 / (ma)	特徴(形態・手法等)	地質	灰白・青白等	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	S001
402. 1	142.	陶器・高足	往0.5 / - / -	モリハーネの口縁を有する。折り重なる腰足や、舟形足の文を備える。内外面に削痕がある。	良好	灰白	泥質	織口・青白(底)	S002
402. 2	142.	陶器・碗	(3.6) / - / -	圓錐・素面。内腹及び外腹の縁部に削痕。外腹側縁部をそれぞれ削痕。外に4つの切跡がある。	良好	灰白	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	S004
満鉢出土遺物観察表									
404. 1	142.	陶器・高足	法目・高足 / 11F - 高足 / (ma)	特徴(形態・手法等)	地質	灰白・青白等	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	西段谷
405. 2	-	陶器・高足	(4.2) / - / -	丸錐による腰足を有し内腹に削痕を有する。内腹は削痕ナデ。	良好	灰白・青白等	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	西段谷
405. 3	142.	陶器・高足	(4.6) / - / -	往による腰足と斜面削痕を有する。外腹は削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。	良好	灰白	泥質	織口・青白(底)	西段谷
405. 4	142.	陶器・高足	(5.1) / - / -	モリハーネを有する。鍋山口縁や頭部を墨。頭部瓦陶文と、内腹は墨付ナデ。	良好	白色	泥質	織口・青白(底)	西段谷
405. 5	142.	陶器・高足	(6.8) / - / -	外腹と内腹ともに削痕ナデ。	良好	青白石	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	西段谷
405. 6	143.	陶器・高足	(7.1) / - / -	内腹は削痕ナデ。	良好	青白石	泥質	織口・青白(底)	西段谷
405. 7	143.	陶器・高足	(7.7) / - / -	輪廻の文による文様を施す。内腹は、削痕ナデ。	良好	青白石	泥質(外腹・内腹)	織口・青白(底)	西段谷
405. 8	143.	陶器・高足	(8.0) / - / -	そとの間に削痕が有る。外腹は削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。	良好	金云母・石英	泥質	織口・青白(底)	西段谷
405. 9	143.	陶器・高足	(9.0) / - / -	上部に削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。外腹は削痕ナデ。	良好	石英	泥質	織口・青白(底)	西段谷
406. 10	143.	陶器・高足	(9.3) / - / -	2枚の削痕による削痕の文が有る。外腹は削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。	良好	白色	泥質	織口・青白(底)	西段谷
406. 11	143.	陶器・高足	(9.5) / - / -	往による腰足と斜面削痕を有する。外腹は削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。	良好	白色	泥質	織口・青白(底)	西段谷
406. 12	-	陶器・高足	(4.0) / - / -	2枚の削痕による削痕の文が有る。外腹は削痕ナデ。内腹は削痕ナデ。	良好	砂岩	泥質	織口・青白(底)	西段谷

卷之三

種類	学名	和名	法則基準	規格	外観		内観		備考
					外観(外側/内側)	内観(外側/内側)	断面(外側)	内観	
規格品	規格品	規格品	規格品	規格品	内側平直、端部は丸形。端部は丸形。規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉のナード。	内側平直、端部は丸形。規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉の端部。外側はナード。内側は規格品による。	規格	規格	1区調査区
407-1	4.43	規格品・規格品	(3.6) / ~	(3.6) / ~	内側平直、規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉のナード。	内側平直、規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉の端部。外側はナード。内側は規格品による。	規格	規格	1区調査区
407-2	4.43	規格品・規格品	(6.7) / ~	(6.7) / ~	内側平直、規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉の端部。外側はナード。	内側平直、規格品による。羽状葉の端部。伸縮葉の端部。外側はナード。内側は規格品による。	規格	規格	2区調査区
407-3	—	規格品・規格品	長14.0 / 厚3.4	厚3.3	規格品。ただし、端部はアバウトな形状があり、規格品とは異なる。	規格品。ただし、端部はアバウトな形状があり、規格品とは異なる。	規格	規格	2区調査区
407-4	4.43	規格品・規格品	(2.7) / ~	6.0	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区
407-5	4.43	規格品・規格品	(2.5) / ~ < 5.0	< 5.0	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	4区調査区
407-6	—	規格品・規格品	(1.6) / ~ < 5.2	< 5.2	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	4区調査区
407-7	4.43	規格品・規格品	(2.5) / ~ < 4.0	< 4.0	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区
407-8	4.43	規格品・規格品	(3.0) / ~ < 4.5	< 4.5	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区
407-9	4.43	規格品・規格品	(3.2) / ~ < 7.7	< 7.7	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区
407-10	4.43	規格品・規格品	(2.0) / ~ < 5.1	< 5.1	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区
407-11	4.43	規格品・規格品	(2.4) / ~ < 3.2	< 3.2	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。規格品。	規格	規格	1区調査区

40712	143	磁器・鏡	(2.1) /~/-<3.0>	反射、鏡・・美濃、近世、外縁にも乳頭状け、外縁は文字等を基く。高台部に輪郭2ヶ所 ある。内面は見ひらか、鏡、・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄 いもじし小鏡か、鏡、・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄	良好	K6J	K6J	鏡計~鏡の底 25%強R。	1.区割れ区
40713	143	磁器・鏡	2.4 /~<5.4>/~<2.6>	反射、鏡・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄 いもじし小鏡か、鏡、・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄	良好	K6J	K6J	鏡計~鏡の底 40%強R。	1.区割れ区
40714	143	磁器・鏡	(1.1) /~/-<2.6	反射、鏡・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄 いもじし小鏡か、鏡、・・美濃、近世、外縁上にも乳頭状だが、高台部は内外とも薄	良好	K6J	K6J	白背景、底面 40% 強R。	1.区割れ区
40715	143	陶器・皿	(3.2) /~<13.2>/~-	小皿、黒釉、近世、外縁とも乳頭状で、見ひらかに開窓が2ヶ所。 内面は輪郭と凹部の間で、窓は2つある。内面は輪郭と凹部の間で、窓は2つある。	良好	K6J	K6J	鏡計~鏡の底 20%強R。	1.区割れ区
40716	143	磁器・鏡	(1.0) /~/-<3.2	反射、鏡・・美濃、近世、内面は輪郭と凹部の間で、窓は2つある。	良好	K6J	K6J	鏡計~鏡の底 80%強R。	1.区割れ区
40717	143	磁器・鏡	(2.3) /~<1.7>/~<5.0>	反射、鏡・・美濃、近世、内面は輪郭と凹部の間で、窓は2つある。	良好	K6J	K6J	底面~底面 40%強R。	1.区割れ区
40718	143	磁器・鏡	(1.9) /~<5.0>	反射、鏡・・美濃、近世、内面は輪郭と凹部の間で、窓は2つある。	良好	K6J	K6J	底面~底面 25%強R。	1.区割れ区
40719	143	陶器・鏡	(2.3) /~<5.6>/~-	反射、鏡・・美濃、近世、内面とも乳頭状。但し、全周黒色をもすればではなく、断らる。	良好	K6J	K6J	1.区割れ 20%強R。	1.区割れ区
40720	143	陶器・鏡	(3.4) /~/-~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は輪郭。右面部はノリ印形となり、 門の印形と左面部は乳頭状である。内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 70%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 70%強R。	1.区割れ区
40721	143	陶器・皿	(3.0) /~<4.4	反射、鏡・・美濃、近世、内面は乳頭状となる。 内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 45%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 45%強R。	2.区割れ区
40722	143	陶器・鏡	(2.4) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は乳頭状となる。 内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 50%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 50%強R。	5.区割れ区
40723	143	陶器・鏡	(3.2) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 55%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 55%強R。	1.区割れ区
40724	143	陶器・鏡	(3.6) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 60%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 60%強R。	1.区割れ区
40725	143	陶器・鏡	(2.0) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 65%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 65%強R。	1.区割れ区
40726	143	陶器・鏡	(3.2) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 70%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 70%強R。	2.区割れ区
40727	143	磁器・鏡	(3.3) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 75%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 75%強R。	1.区割れ区
40728	143	磁器・皿	1.9 /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 80%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 80%強R。	1.区割れ区
40729	143	陶器・鏡	(5.4) /~<~	反射、鏡・・美濃、近世、内面は見ひらか、鏡計~鏡の底 85%強R。	良好	K6J	K6J	底面~底面 85%強R。	1.区割れ区
40730	143	真珠品・カスガイ	長11.7 幅4.0 厚0.9	重量 38.0g。鱗片状を有するもの。地金部分が少しつかりとり、比較的新しいもの。	良好	—	—	浅黄。	4.区割れ区

参考文献

番号

1. 長野原町 1976 「長野原町史」上巻
2. 長野原町教育委員会 1990 「長野原町の遺跡一町内遺跡詳細分布調査一」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
3. 長野原町教育委員会 1995 「長野原城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
4. 長野原町教育委員会 1996 「高原遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
5. 長野原町教育委員会 2000 「町内遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
6. 長野原町教育委員会 2002 「町内遺跡Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第9集
7. 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第10集
8. 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第11集
9. 長野原町教育委員会 2005 「林家屋敷跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
10. 長野原町教育委員会 2004 「町内遺跡Ⅴ」長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
11. 長野原町教育委員会 2004 「林原原遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
12. 長野原町教育委員会 2005 「町内遺跡Ⅵ」長野原町埋蔵文化財調査報告第15集
13. 長野原町教育委員会 2006 「町内遺跡Ⅶ」長野原町埋蔵文化財調査報告第16集
14. 長野原町教育委員会 2008 「町内遺跡Ⅷ」長野原町埋蔵文化財調査報告第17集
15. 長野原町教育委員会 2009 「町内遺跡Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第18集
16. 長野原町教育委員会 2010 「町内遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第19集
17. 長野原町教育委員会 2010 「中原Ⅰ遺跡跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
18. 長野原町教育委員会 2011 「町内遺跡Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第21集
19. 長野原町教育委員会 2012 「町内遺跡Ⅻ」長野原町埋蔵文化財調査報告第22集
20. 長野原町教育委員会 2012 「林原原遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
21. 長野原町教育委員会 2013 「山岸Ⅱ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第24集
22. 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡Ⅼ」長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
23. 長野原町教育委員会 2013 「三平Ⅰ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第26集
24. 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡ⅩⅢ」長野原町埋蔵文化財調査報告第27集
25. 長野原町教育委員会 2014 「町内遺跡ⅩⅣ」長野原町埋蔵文化財調査報告第28集
26. 小池富治郎 1930 「吾妻郡の『吾妻』教育学会
27. 山崎一・山口武一 1972 「吾妻郡城史」
28. 中降之 1979 「石垣遺跡発掘」長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局
29. 群馬県 1988 「群馬県の中世城郭跡」
30. 群馬県教育委員会 1988 「群馬県の古跡大辞典」
31. 上毛新聞社 1999 「群馬県古跡大辞典」
32. 荒豊野岩宿文化資料館 2000 「第30回企画「奥利根川流域の幾草御期」
33. かみつけの里博物館 2000 「第6回特別企画について考える」
34. 原田昌幸 2007 「日本の美術No.95 犀川土器 草創期 早期」至文堂
35. 石田真 2004 「群馬県北西部における隠し穴の構造時期をめぐって—長野原町の事例を中心として—」『研究紀要22』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
36. 繁巻幸男 2007 「鐵時代中期の住居跡内施設について—櫛取村道跡発見』『研究紀要25』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
37. 山口弘造 2009 「「平道跡31号」住居跡出土土器の再検討」『研究紀要27』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
38. 橋本淳 2010 「中部地方における櫛取早期比佐継上器の編年一ハッ場ダム開通遺跡出土資料の位置付け」『研究紀要28』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
39. 鈴木徳雄 2012 「堀之内式土器研究の諸問題—堀之内式の概観と周辺諸式」第25回講文セミナー「縄文後期土器研究の現状と課題」講文セミナーの会
40. 郡馬大学教育学部編 2004 「地形喜左雄博士 調査収集考古遺物・調査資料目録」雄山閣
41. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 「長野原(さなげ)遺跡」朝日長野原津井川停車場線道路(横坂)建設に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書
42. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2002 「長野原一本松遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集
43. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2002 「ハッ場ダム発掘調査集(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集
44. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2003 「々戸久ダム遺跡・中橋Ⅰ遺跡・下原遺跡・横坂中村遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
45. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2004 「々戸久Ⅱ遺跡・中橋Ⅱ遺跡・西ノ上遺跡・上郷A遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集
46. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2005 「横坂中村遺跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集
47. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2005 「川原湯滑沼遺跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集
48. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 「横坂中村遺跡(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
49. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 「立馬Ⅰ遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
50. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 「上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集
51. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 「横坂中村遺跡(4)」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
52. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 「立馬Ⅱ遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
53. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 「下原遺跡Ⅱ」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
54. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 「三平・Ⅱ遺跡」ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

55. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 『横野中村道路(5)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集
56. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2007 『長野原一本松遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集
57. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『幸神道路・上原IV遺跡・山根III遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集
58. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『榎木II遺跡(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集
59. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『長野原一本松遺跡(3)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集
60. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『横野中村道路(6)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集
61. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『横野中村道路(7)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集
62. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『上ノ平I遺跡(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集
63. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2008 『長野原一本松遺跡(4)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集
64. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『立馬笛道路』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集
65. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『榎木II遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集
66. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『長野原一本松遺跡(5)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集
67. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『横野中村道路(8)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集
68. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『横野中村道路(9)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第30集
69. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『横野中村道路(10)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集
70. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『横野中村道路(11)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第32集
71. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2010 『東原I・II・III遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集
72. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2011 『東宮遺跡(1)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集
73. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『横野中村道路(12)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集
74. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『東宮遺跡(2)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集
75. 群馬県・公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『尾坂道路』社会資本整備総合交付金事業(活力創出基盤整備)長野原草津口駅舎整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第546集
76. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2012 『榎木I遺跡・上原IV遺跡(2)・西久保IV遺跡』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集
77. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2013 『長野原一本松遺跡(6)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集
78. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2013 『横野中村道路(13)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第41集
79. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『長野原一本松遺跡(7)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第42集
80. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『林中原I遺跡・長野原城』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集
81. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2014 『横野中村道路(14)』ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集
82. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995 『年報14』
83. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『年報15』
84. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『年報16』
85. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『年報17』
86. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『年報18』
87. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『年報19』
88. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『年報20』
89. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『年報21』
90. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『年報22』
91. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『年報23』
92. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『年報24』
93. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『年報25』
94. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『年報26』
95. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『年報27』
96. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『年報28』
97. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『年報29』
98. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『年報30』
99. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『年報31』
100. 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 『年報32』

報告書抄録

ふりがな	はやしちくいせきぐん							
書名	林地区遺跡群							
副書名	水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2分冊							
巻次	第1集							
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	富田孝彦 高林真人 向出博之 水谷貴之 小宮山達雄							
編集機関	長野原町教育委員会							
所在地	〒377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174 TEL 0279-82-4517							
発行年月日	平成27年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	所在名	コード 市町村	北緯 (世界測地系)	東緯 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
うえはらいくいせきぐん 上原I遺跡II	群馬県吾妻郡長野原町 大字林字上原 1036-1.1037-1.1038-1, 1039-1.1040-1.1041-1, 1041-2.1041-3.1042-1, 1043-1.1066-1.1067-1, 1068.1069.1070.1071, 1164.1165-1.1166-1, 1167-1.1168-1	10424	41	36° 32' 48"	138° 40' 42"	20120524 ~ 20121005	4,312	町営林土地改良事業
うえはらいくいせきぐん 上原IV遺跡IV	群馬県吾妻郡長野原町 大字林字上原 1114-1.1114-2.1113-1, 1136-1.1137-1, 1138.1139-1.1140-1, 1141-1.1203-1	10424	44	36° 32' 46"	138° 40' 35"	20120417 ~ 20120420 20120921 ~ 20121130	3,106	町営林土地改良事業
はやしちくいせきぐん 林中原I遺跡XI	群馬県吾妻郡長野原町 大字林字中原 816-1.828-2.835-1, 836-1.840-3.841-1, 844.845-1.845-3.846-1, 846-3.847-1.847-3, 848-1.848-3.849-1, 849-3.850-1.850-3, 851-1.851-3.852-1, 852-3.853-1.853-4, 854-1.854-2.877-1, 880.881-1.883-1	10424	45	36° 32' 34"	138° 40' 34"	20130401 ~ 20130829	4,013	町営林土地改良事業
はやしちくいせきぐん 林中原II遺跡X	群馬県吾妻郡長野原町 大字林字中原 965-1.966-1.971.972, 974-2.975-1.979-1	10424	46	36° 32' 39"	138° 40' 45"	20130408 ~ 20130723	2,071	町営林土地改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上原Ⅰ遺跡Ⅱ	集落跡	縄文時代前期	竪穴住居跡 9軒	縄文土器・弥生土器・古式土器・土師器	縄文時代前期・中期の集落跡である。出土遺物は花積下層1式土器が主体であるが、長野県東信地域を中心とする塙田式土器の要素も多分に見受けられる。中期は4軒の竪穴住居跡が確認された。古墳時代前期は、長野原町では初回となるS字彫を伴う竪穴住居跡が確認された。平安時代は竪穴住居跡 11軒、陥し穴 59基
		縄文時代中期	竪穴住居跡 4軒	須恵器・灰釉陶器	落棲出
		弥生時代	土坑 1基	陶磁器・羽口・鍛冶	古墳時代前期の竪穴住居跡が検出され、S字彫が出土した
		古墳時代前期	竪穴住居跡 1軒	津・鉄製品・石器	
		平安時代	竪穴住居跡 11軒 陥し穴 59基	石製品	
要 約	本遺跡は、吾妻川左岸の最も位段丘面に立地する縄文時代前期～中期、古墳時代前期、平安時代の集落跡である。縄文時代前期は9軒の竪穴住居跡が確認された。出土遺物は花積下層1式土器が主体であるが、長野県東信地域を中心とする塙田式土器の要素も多分に見受けられる。中期は4軒の竪穴住居跡が確認された。古墳時代前期は、長野原町では初回となるS字彫を伴う竪穴住居跡が確認された。平安時代は竪穴住居跡 11軒、陥し穴 59基のほか、鍛冶関連遺物が出土した。分析の結果、糞尿貯蔵槽が行なわれていたと想定される。住居跡の規模が小さく、墨書き土器と灰釉陶器が少ないとから、上原Ⅲ・中頃Ⅱ遺跡とは性格の異なる集落と考えられる。				
上原IV遺跡IV	集落跡	縄文時代後期	竪穴住居跡 1軒	縄文土器・土師器・古式土器	縄文時代後期の敷石住居跡を検出
		同 後～晚期	遺物包含層 1か所	須恵器・陶磁器・古銭	南カマドの竪穴住居跡を検出
		古墳時代後期	竪穴住居跡 2軒	石器・石製品	
		平安時代	竪穴住居跡 4軒		
要 約	本遺跡は、吾妻川左岸の最も位段丘面に立地する縄文時代後期、古墳時代後期、平安時代の集落跡である。縄文時代後期は1軒の敷石住居跡が確認された。隣接する事業団調査分と合わせて1つの集落を形成する。集落の近くには後期～晚期の遺物包含層があり、多量の遺物が出土した。古墳時代後期は2軒の竪穴住居跡が確認され、その内の1軒から器種構成で把握できる良好な遺物が出土した。平安時代は4軒の竪穴住居跡が確認され、南カマドの住居跡が見られる。上原Ⅰ遺跡Ⅱと同様、住居跡の規模が小さく、墨書き土器と灰釉陶器が少ない。このような状況から上原Ⅲ・中頃Ⅱ遺跡とは性格の異なる集落と考えられる。				
林中原Ⅰ遺跡X	集落跡・城	縄文時代前期	竪穴住居跡 1軒	縄文土器・土師器・平安 19・21	
		平安時代	陥し穴 8基	須恵器・陶磁器・鉄	
		中近世	郭 1か所	年度事業団調	
			掘立柱建物跡 7棟	石製品・古銭・石器・査区の隣接地	
			溝跡 10条		を調査
要 約	本遺跡は、吾妻川左岸の最も位段丘面の南端部に立地する縄文時代前期集落および中世～近世の林城関連施設である。縄文時代前期の竪穴住居跡は、事業団調査区で調査された1軒の残存部分のみが確認され、集落規模は小さくと考えられる。平安時代の遺構として陥し穴8基のみが確認された。立地する段丘丘面の南端部は平安時代には住居域ではなく別の用途で利用されていたと考えられる。中世～近世の遺構は、林城の郭と考えられる平坦面と、林城に関連すると考えられる、掘立柱建物跡7棟、水場遺構1基、溝跡10条などが確認された。				
林中原Ⅱ遺跡X	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居跡 1軒	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・鉄	近世の建物跡
		近世	建物跡 2棟	製品・銅製品・土製品	は東原Ⅲ遺跡と同一集落の可能性あり
			ヤックラ 2基	石製品・石器	
			土坑 16基		
要 約	本遺跡は、吾妻川左岸の最も位段丘面の南端部付近に立地する縄文時代中期と近世の集落跡である。縄文時代中期は1軒の竪穴住居跡が確認された。周辺の調査事例でも同時期の竪穴住居跡が確認されており、集落域が広がると考えられる。近世の遺構は、建物跡2棟、土坑16基、ヤックラ2基などが確認され、土坑には墓の可能性があるものも存在する。東に隣接する東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡でも同時期の掘立柱建物跡が確認されており、同一の集落であったと考えられる。				

林地区遺跡群

水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集
第2分冊

上原Ⅰ遺跡Ⅱ・上原Ⅳ遺跡Ⅳ・林中原Ⅰ遺跡XⅠ・林中原Ⅱ遺跡X

平成27年2月23日 印刷

平成27年3月13日 発行

発行 群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

〒377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174

TEL 027(82)4517 FAX 027(82)4519

印刷 上海印刷工業株式会社

〒379-2154 群馬県前橋市天川大島町305-1

TEL 027(224)6245 FAX 027(224)6290